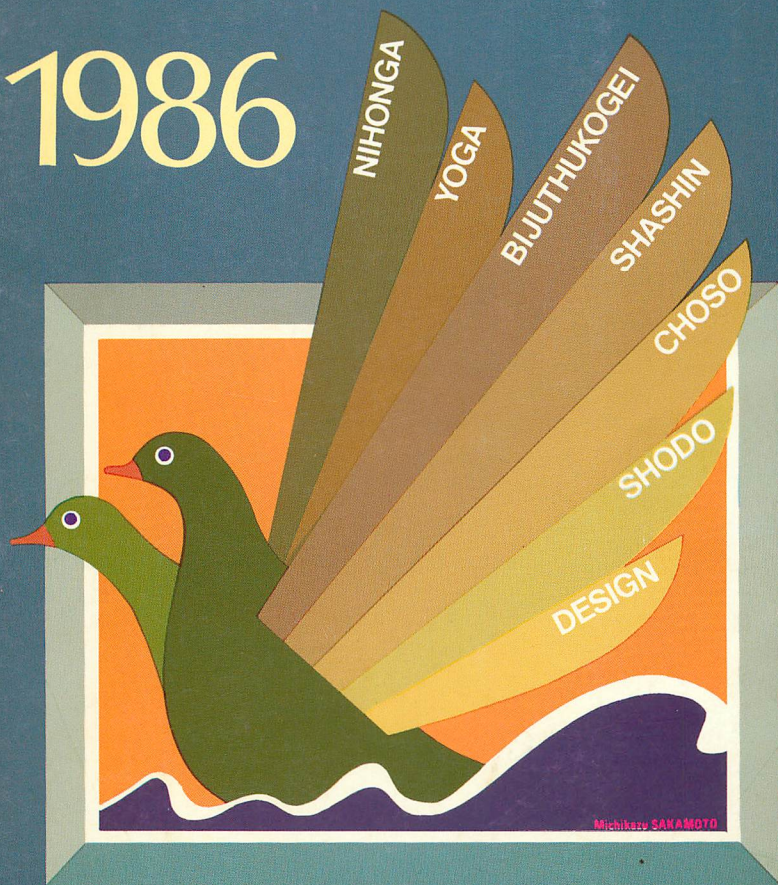


美術年報

1986



徳島県美術家協会

は　じ　め　に

昭和60年は本会にとって記念すべき年で、県展が40回を迎えることができました。終後戦、荒廃の中で県民の心の糧として、非常に困難な中で行った県展も、今日のような隆盛をきわめるようになったことは、ご出品いただいている県民の方々、ご鑑賞いただいている県民の方々、運営にご協力いただいている関係者の方々と、こよなく県展を愛する多くの人によって支えられていることと存じ、心から厚くお礼を申し上げる次第です。

第40回県展は、出品数2,398点と史上最高となり入選率も38.6パーセントと厳選になりました。入選・受賞作品926点と無鑑査出品作品115点の計1,041点を第一期として昭和60年11月9日から14日まで、日本画、洋画、写真、彫塑、美術工芸、デザインを展示し、第二期として11月16日から20日まで、書道を展示し、郷土文化会館は11,543名の鑑賞者で賑いました。

第40回展を記念して、ふさわしい行事をということで種々検討した結果、次の四つの行事を実施いたしました。

- (1) 県展の創設当時から現在の状況、これからの進むべき道等を関係者によって話し合い、徳島新聞紙上（昭和60年11月5日付）で掲載した。
- (2) 県展の創設に功劳のあった福島正仁氏と長井公雄氏に感謝状を贈った。
- (3) 一般公募作品に力作が出品されることを期待して各部門に「大賞」を特別に設けた。
- (4) 受賞者（特選・準特選）の祝賀懇談会を開いて、受賞の喜びをかみしめていただくと共に、関係者とこれからの期待すること等を話し合った。

さらに第40回県展が無事終了した時点で、もう一度県展の在り方を考えて、本当に県民の県展にしようという意見がでて、県展準備委員会（昭和60年1月20日発足）を設け、種々検討をし、新しい第41回展を迎えるよう努力をいたしておるところであります。

県立近代美術館につきましては、河野会長が美術館資料収集委員会（委員7人）のメンバーとして参加し、昭和60年末で美術館資料として98点を購入しています。

終わりにになりましたが、河野会長が60年8月に、病に突然倒れられましたので、皆様には十分な運営ができなかったことを申し訳なく思っております。昭和61年度にむけて体制をつくってまいりたいと思っておりますので、御協力をお願いします。

昭和61年3月

徳島県美術家協会事務局

徳島県美術家協会規約

昭和23. 9. 12	規約制定
32. 7. 14	新規約制定
33. 4. 29	規約一部改正
42. 4. 23	〃
46. 4. 29	〃
47. 5. 29	〃
49. 8. 22	〃
52. 7. 23	〃
56. 5. 5	〃
58. 6. 5	〃

第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島県立図書館内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫塑

⑥美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

(イ)展覧会 (ロ)講習会 (ハ)講演会

(ニ)観光美術の振興 (ホ)その他必要な事業

第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

会 長 副会長(2名)

理 事(若干名) 監 事(2名)

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から4名以内推せんす。役員の任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員を選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあっては3名、31名以上の部にあっては、さら

に10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

部会長・委員(部会員数の3割以内)

部監事(2名)

役員は部総会で選出する。役員の任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員を選出その他重要事項の審議を行う。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり1,500円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,000円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館(現在の県立図書館)内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会バッチを選定(図案は塚塚副会長)

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事(3名~4名)によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部(日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・書道)のうえに商業美術(58年度からデザインに改称)が加わり7部組織となる。

昭和59年度 事業報告

- (1) 総 会
 - 昭和59年 6月 2日
 - 県郷土文化会館 第8会議室
 - 昭和58年度事業報告及び決算報告
 - 監査報告・承認
 - 昭和59年度事業計画及予算審議
 - その他
- (2) 理 事 会
 - 昭和59年 7月12日 第39回県美術展など
 - 昭和59年 9月27日 各種行事など
 - 昭和59年12月21日 県展反省・次回展の検討など
- (3) 第39回県美術展
 - 第1期 59.11.10～15 (県郷土文化会館)
日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・デザインの551点展示
 - 第2期 59.11.17～21 (県郷土文化会館)
書道の500点展示
- (4) 第25回記念博美展 (県博物館共催)
 - 第1期 59.5.16～20 写真・デザイン
 - 第2期 59.5.23～27 日本画・書道
 - 第3期 59.5.30～6.3 洋画・彫塑・工芸
- (5) 県美術講習会
 - <洋画部>
 - 昭和59年 4月29日 鳴門市岡崎海岸
 - 風景画の講習
 - 講師 洋画部委員
 - <日本画> 県教委共催
 - 昭和59年 8月 5日 徳島市中央公民館
 - 静物画の講習
 - 講師 下田義寛氏
- (6) 美術年報の発刊
 - 昭和60年 3月
 - 県展記録・各部門の歩み・会員名簿など
- (7) 各部委員会・その他
 - 日本画 (59.5.13, 60.1.20)
 - 洋 画 (59.6.5, 9.11, 12.4)
 - 写 真 (59.7.7, 10.10)
 - 彫 塑 (59.5.18)

- 美術工芸
 - 書 道 (59.4.26, 8.9)
 - デザイン (59.6.13, 8.25, 10.15)
 - 第39回県展書道審査員打合せ (59.10.9)
 - 第39回県展審査員(書道を除く)打合せ (59.10.20)
 - 県芸術祭移動県展池田会場 (59.11.23~25)
海南会場 (59.12.1~3)
- (8) 各種後援
- 第9回春の書芸院展無尺会33人展 (59.4.27~4.30)
 - 中央絵画展 (59.5.3~5.7)
 - 第19回成蹊書道会展 (59.5.4~5.6)
 - 第7回写真同人「炎」作品展 (59.6.15~6.17)
 - 田中双鶴書作展 (59.6.15~6.17)
 - 第43回世代美術展 (59.6.21~6.24)
 - 県美術家協会書道部選抜展 (59.6.22~6.24)
 - 第14回藍染創作十人展 (59.6.24~6.27)
 - 第6回清水亟愷第1回清水孝倫個展 (59.6.26~7.2)
 - 第40回新作日本画展 (59.7.6~7.8)
 - 上田溪水書作展 (59.7.28~8.1)
 - 13人展 (59.8.2~8.5)
 - 県美協彫塑部会展 (59.8.4~8.8)
 - 第7回洋画彩展 (59.8.25~8.27)
 - 第13回徳島雪心会書作展 (59.8.29~9.2)
 - 第39回青美展 (59.9.2~9.4)
 - 第14回直心会展 (59.9.7~9.9)
 - 第10回克展 (59.9.14~9.16)
 - 第5回書研社展 (59.9.21~9.23)
 - 第31回書芸院現代書展 (59.10.10~10.13)
 - 第19回清潮会書作展 (59.10.26~10.28)
 - 第14回東玄書道会展 (59.11.9~11.11)
 - 第3回小松島市学童書道展 (59.11.10~11.11)
 - 伊原字三郎展 (59.11.29~12.23)
 - 第13回歳末チャリティー色紙・作品即売展 (59.12.14~12.16)
 - 浅田二郎油彩作品展 (60.1.23~1.28)
 - 笹尾芳石新作書展 (60.1.25~1.27)
 - 第14回四国女子大学書道クラブ学外展 (60.2.9~2.11)
 - 県美協第2回洋画部会員展 (60.2.22~2.26)
 - 第10回四国女子大学文学部書道コース卒業制作展 (60.2.22~2.24)
 - 津金崔仙書展 (60.3.9~3.10)
 - 第11回桂鳴書展 (60.3.15~3.17)
 - 第14回ナルトびんばけクラブ写真展 (60.3.19~3.24)

第40回県美術展出品・入選等状況

部門 区分		日本画	洋画	写真	彫塑	工芸	書道	デザイン	計
出品数		105	299	642	46	98	1,123	85	2,398
入選	率	40.0%	35.4%	27.1%	60.8%	58.2%	41.6%	60.0%	38.6%
	大賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特選	3	5	9	1	4	13	3	38
	準特選	2	6	14	2	3	22	2	51
	入選	36	94	150	24	49	432	45	830
	計	42	106	174	28	57	468	51	926
落選	率	60.0%	64.6%	72.9%	39.2%	41.8%	58.4%	40.0%	61.4%
	落選	63	193	468	18	41	655	34	1,472
招待等	招待	7	11	12	5	7	23		65
	無鑑査	1	1	5		1	8		16
	特別出品	1	2				11	1	15
	賛助出品	4	14			1			19
	計	13	28	17	5	9	42	1	115
展示数		55	134	191	33	66	510	52	1,041

第40回展の記録

会期 (第1期) 60.11. 9~14
 (第2期) 60.11.16~20
 会場 県郷土文化会館

日 本 画

〔審査員〕	下保 昭			
〔招待〕	村上 凌雪	長尾 弘子	荻野 行夫	田淵 冬湖
	中川 健	矢野 秋溪	橋本 正弘	
〔特別出品〕	高岡 何有			
〔賛助出品〕	篠原 三叢	森 篤苑	高田 瑞雪	釣島 冬樹
〔無鑑査〕	土方るみ子			
〔大賞〕	岡 英彦			
〔特選〕	上原 圭子	土井 洋子	西野 和男	
〔準特選〕	秋元よし子	津田津保三		
〔入選〕	谷川智恵子	長谷 寿	土肥 米吉	齊藤 梅子
	森本 収子	反田 卓	坂本美代子	岡 正明
	井原 順子	犬伏 孝子	福本 和行	小笠原豊雄
	滝口 信一	後藤田 穰	齊藤 誉	森下 光代
	岡田 千秋	楠 佳代子	佐藤芙久恵	仁木美貴子
	吉坂美智子	永井 貞子	佐々木文子	柰田 佳子
	中川 愛弓	東内 明美	鶴 悦子	高橋真奈美
	中西 芳雄	日浦 猛史	若山 一恵	市原智美子
	木内 トシ	森見 喜美	北島 節子	森内 明子

洋 画

〔審査員〕	津高 和一			
〔招待〕	佐野比呂志	永山 隆二	清水 亟愼	中川 隆史
	川原 康孝	楠瀬 等	高橋 敬	立岩 巖
	露口 敏幸	服部 裕	長尾 弘久	
〔特別出品〕	平沢いさむ	長井 公雄		
〔賛助出品〕	浅田 二郎	天野 節	今田 史男	大神 良代
	岡 多実子	柏木 雅雄	河田 安市	黒崎 志郎
	武市善次郎	多田 青叙	津地 威汎	板東 俊一

	梶田 務	松川 寛			
[無鑑査]	福野 稔				
[大賞]	岩佐 博久				
[特選]	岡田 英子	鈴江 栄治	藤田 倫子	平田スミコ	
	山口美千代				
[準特選]	賀木 道子	嵯峨 潤三	金原 和美	岡本 征二	
	林 伸也	吉永 房子			
[入選]	太田 秀子	吉野 美保	大宮 和雄	森本 有美	
	中本真由美	佐藤久美子	高橋 浩爾	斉藤 靖子	
	楠本 守孝	楠本 青霞	松下 緑	久米喜美子	
	河野 洋子	杉本 英子	米沢 正嘉	筒井 晶子	
	浜野 三郎	河野 公子	菊地 栄子	岩佐 博久	
	佐藤 敬子	松原 慶典	下内 裕次	真野 孝彦	
	関 美喜子	西川 周三	多田 恭子	伊藤 三恵	
	正木ツル子	加島 由季	山口 紀子	北島 溢美	
	島田ハル子	島川 君子	西宮 新一	正見 絹江	
	釜内 克浩	笹川 五月	後藤ユリ子	中村 敏子	
	騎馬 政美	割石 雄三	島村 英之	渡川 供子	
	安西 京子	青木 幸子	玉田 秀子	岸 千代	
	麻植 尚美	三好ひとみ	伊丹 順子	清水 新也	
	麻 敬子	馬詰 敏之	久米三恵子	藤岡ひとみ	
	原 たず	西 幸子	吉成 敏史	谷崎 泰江	
	折原あゆみ	松本 孝子	吉岡三千代	一宮 茂美	
	濱川伊勢男	岡田 信一	服部 恵美	川人 健司	
	田淵 浜子	川端 肇憲	佐古 一子	谷 麻里子	
	毛利 谷子	木更津美弥	鈴木 せつ	南城ミツ子	
	元木 美香	西條 敏夫	藤原富士子	金岡 義和	
	野村 雅子	岡田 光男	岩佐 美保	岡津 正敏	
	泉 芳恵	大塚 政政	豊茂 智	大西 美和	
	平田 順子	鳥羽 陽子	長尾 有子	本川 麻子	
	土井 順子	山内 史子			

写	真
---	---

〔審査員〕	岩宮 武二	高田 誠三			
〔招待〕	福島 正仁	増田 清次	井上 光雄	木田 英之	
	西條 征二	勝西 雅夫	藤井 梵	武内 亨	
	笹田 敏雄	櫛淵 魏	酒井 博司	三好 和義	
〔無鑑査〕	上野 照文	森 賢一	橋本 圭祐	堀淵 完治	
	安長 剛				
〔大賞〕	荒井 賢治				
〔特選〕	林 敏彦	佐野 辰夫	高田 為一	板井 義典	
	坂田 稔氏	荒井 賢治(2)	北川 麦	原田 武二	
〔準特選〕	古井 謙吉	和田 召旨	佐野 辰夫	田中 昭男	
	大野 武(2)	高田 為一(2)	中野 建吉	増田 寿	
	井藤 光章	佐治 利弘	森 貢	久米 健雄	
〔入選〕	三木 晴夫	納田 康雄	古井 謙吉(8)	櫛淵 紳哉	
	武田 慎介	十川 富義	岩崎 英昭(2)	難波義勝(2)	
	小松 豊	岡崎 茂春	篠原 元	関口 務(5)	
	篠原 文彦	田中 節雄	田中富美子	野々村 勇	
	吉本 実	棧敷 利治	清水 定七	和田召旨(3)	
	渡辺 勝敏	須見 信男(4)	宮崎 行弘	田村泰弘(3)	
	林 敏彦(3)	樽見 義	長谷 進	大津 勝治	
	佐野 辰夫(3)	三田 誠二	田中 昭男(6)	大野 武	
	大野 泰子	中辻 未光(2)	川口 進	山脇 謙三	
	前浦 正広(5)	高田 為一(2)	板井 義典	坂東鶴雄(2)	
	前坂 祥文	中野 建吉(4)	大林 義治(2)	森 住博(2)	
	梅本 貞範	大和 健司	増田 寿(8)	山本 和哉	
	板東 敏晴	山口 元彦(3)	鈴木 憲作(4)	井藤光章(3)	
	井上 翔	佐治 利弘(2)	見渡 良治	和田俊彦(2)	
	形田 耕一	佐治 孝(3)	前浦 芳久(6)	水口 義行	
	荒井 賢治(5)	佐藤 考利	真田 幸隆	宮城高士(2)	
	国行 恵子	森 貢(2)	塀本 信之	平川 和男	
	山下 佳宣	井内 啓二	野藤 敏美	中川 雅寛	
	賀川 泰広	久米 健雄(2)	富永 仁一	福永 昌仁	
	岡本 敏正	多田 晴美	石山 正明		

彫 塑

〔審査員〕	清水 良治			
〔招待〕	河崎 良行	佐藤 隆	井下 俊作	鎌田 邦宏
	大津 文昭			
〔大賞〕	松永 勉			
〔特選〕	蒔田 寿			
〔準特選〕	原田 悦子	小川 真紀		
〔入選〕	大西 美和	吉岡希実子	沢井 良昭	武市 美保
	日開野容子	仲野みゆき	高木 明美	中野 智子
	妹尾 早苗	西川 智子	清崎 晃代	加藤 美紀
	興梠 鏡子	吉田真理子	藤本善太郎	宇民としえ
	柳沢 悦子	粟田 治	山上 正一	加納 正則
	宮武 宏美	洙田 洋子	中西 邦宏	西野久美子

美術工芸

〔審査員〕	浅野 陽			
〔招待〕	新居 猛	高橋 勇	森 昌男	森 浩
	七条猪三郎	多智花佐代子	松下 雄介	
〔賛助出品〕	村上 正典			
〔無鑑査〕	森 賢一			
〔大賞〕	松下 慶一			
〔特選〕	橘 恵	青木 房江	犬伏 絢	井後 宏
〔準特選〕	仁尾 郁代	後藤田喜一	三井 八郎	
〔入選〕	青木 秀夫	岡田 源吉	湯佐 厚子	撫養ミツエ
	郡 幸	四十宮年代	仁尾 郁代	仁宇 義昭
	佐藤 勝子(2)	中筋千代子	福山 光子	松山 豊
	藤田 武志(2)	岡崎 益子	光永 峡園(2)	平野仁太郎
	森 行雄	森 明治	松浦 はま	小栗加代子
	堺 都美子	松下 慶一	谷 育子	鎌田 里子
	西 浩子	藤本善太郎	影谷美代子	山本 和子
	橋本 俊夫(2)	大西 玲子	萬 英子	大西賢治(2)
	森 悦光	春本三次郎	門田 照子	後藤田喜一

島田 吉子 齊藤 和彦	太田 裕子 加地真紀恵	福本アヤ子(2) 高原亜紅理	前川 桃代
----------------	----------------	-------------------	-------

書 道

〔審査員〕	荒井 天鶴 高原 清泉 新居 藍州	久保 幽香 田中 双鶴 西岡 楚峰	讃岐 泰泉 田中 栢翠	春藤 大耿 長江 清幽
〔特別出品〕	富永 眉峰			
〔待 招〕	仲 三千人 成尾 莊秀 芝原 醒鶴 岸 潮風 川上 虹泉 日下 溪翠	宮井 青雨 渡辺 草石 前川 古舟 中谷 史子 三間 好鷺 岡島 順子	長原 皐鶴 原田 霄月 清水 桂月 長谷 美峰 近藤 静苑 荒井 彭仙	西 南龍 三木田 栖鶴 美馬幾美賀 勝瀬 景流 上田 溪水
〔無鑑査〕	山口 華城 中尾 勝子	武市 鳴雲 松田 友栄	島田 小園 藤若 美風	下村 清子 永松 春苑

◇ 漢字の部

〔大 賞〕	隅田 英二			
〔特 選〕	伊丹 東龍	岡田 華苑	佐藤 真堂	
〔準特選〕	田村 昇鶴 長楽 優香	能仁 華瑤 横田 素林	亀石 文苑	宇山 泰鳳
〔秀 作〕	割石 浩子 駒田 澄子 寺内 喜一 川城 輝昭 宮越 俊二	鈴木 正友 長楽 優香 福永久美子 奥野 信夫 西岡 詩朗	久積 晃 大平 京子 高田 孝子 佐藤真治郎 新居 邦夫	鈴木エリ子 岡田佐禧子 曾川 由明 熊代 厚子
〔入 選〕	奈木 邦夫 吉田 益義 吉田美乃里 小林 義治 南 知枝 射場 博子 木村 英一	田村裕美子 高原 智世 小松 文男 八木 澄江 久次米公代 養手 洋子 鳥居美智恵	浅川 陽子 海原 進 河野多美子 森 澄子 川村 真澄 弘田 敏章 広島 夏子	菱崎 信義 富士谷雅弘 椎野 博 南 勝雄 赤松 茂幸 村沢健太郎 近藤 幸祐

久米 幸子	富士 照子	井上 公子	馬淵 直枝
松浦 幸子	成清 梢	花本ふくみ	黒田 早苗
以西 寛敬	山本 数馬	近藤 明男	金山 恭子
丸谷美代子	吉本 和代	坂東 济子	高井 初子
炭田 和代	長井 由江	西岡喜美子	西野 朋子
岩佐 弘子	鹿島 順子	松下 寅雄	山地 靖子
大下 富江	多田留美子	宇野 大平	山本きよみ
扶川 治子	久米アサ子	原口 栄子	洲崎 忠雄
姫路 久男	山ノ井文昭	井内 裕子	板東 晶子
大櫛 明美	西木久美子	荒岡 勲	富士あい子
藤本 貴子	山城美三子	長江 達造	速川 孝恵
河野 憲二	坂東 英司	麻植 正子	宇山 和治
坂東 和子	坂東 武	森上 修市	河野 清
宮地 孝敏	青木 博美	福井 民代	鳩成 広美
広島 章子	武田 知子	宮地恵美子	日下 司子
藤村 恭子	大松 洋子	有井 清	小西貴美子
山尾 素文	遠藤 美信	斉藤 真紀	宇田 長未
真鍋 一美			

◇ 仮名の部

〔特 選〕	竹田 和代	富久 鳴泉	松本 清香	後藤田公基
	加藤 芳仙	大松 華雪	吉岡 景鵬	
〔準特選〕	表原 輝美	山中 真紀	吉成真由美	河田 汀鶴
	光井 明美	宮城 明子	谷酒 秀雲	高島 瑞峰
	西浦千代里	尾田 艶子	樫原 溪川	広島 章子
〔秀 作〕	佐々木亀三郎	田中 久恵	阿部 豊彦	谷口 博子
	瀬藤 豊子	炭谷 嘉子	吉成 敏子	坂口貴美子
	藤川満里子	大塚 俊美	亀石 二三	加村喜美子
	清村 宗子	久次米公代	小井田境子	西谷 公子
	横堀 恵子	市原 瑞江	枝川 照子	米津 秀信
	増田 愛子	津田 尊子	井川 敏子	武市 勝恵
	小西 敬子	笠原小夜子	吉田 有子	横井三知代
	磐崎 恭子	枅富 幸代	中西 甫子	笠井 宣江
	岸田いち子	神野いずみ	小出 圭子	大松 洋子
	清水 嘉子			

〔入 選〕

吉田美恵子	山本 恵子	田村 明美	坂田美智子
福島 由子	吉田 良枝	村岡善三郎	大松美智子
井内 滋子	播磨 恭子	辻 博己	住友 愛啓
増田 恵子	中野 芳一	富士山市子	岩野美智代
佐藤 美恵	高尾 照子	伊東 重子	田中 千富
渡部 幸子	植田まどか	三宅 葉子	北條 明美
三津 栄子	福田世津子	木村ゆかり	木村 弘子
菱崎 奈美	吉見ひとみ	桜間 朱美	横山 美子
喜内恵美子	坂東万里子	逢坂八十一	尾原 常子
松原 由美	兼松 礼子	川村 真澄	阿部 千秋
稲井 知子	大西 玉美	古郷 弘江	坂 禮子
須原 理恵	田中 映子	田中 千恵	松家 祥
新開ひとみ	藤川 百合	藤本 晃代	青木千代美
稲井真由美	大栗 奈津	古郷 恵美	後藤田可奈
富士美峰世	細川 好子	伊勢 洋子	小井田真紀
田村富士子	青野佐知子	秋山富美子	伊勢 嘉代
稲垣 浩子	内田ヨウ子	内村 久	内山 和子
栄 卓美	大寺 薫	大西 由美	大野真由美
岡本 晴美	小川美智恵	尾崎 和子	梯 葉子
金山 恭子	川原 一恵	岸本多美子	国見 幸子
小濱 紫	小松三智子	近藤 晴実	祖母井千里
田中 真紀	田中 睦美	千葉 真美	筒 真理子
長廻 典子	西村 佳子	西山 雅子	二宮 由香
浜崎 佳子	浜田 香代	樋口久美子	福島 宏美
藤田 陽子	藤本 真弓	馬淵 晴美	水口 尚子
宮田 里佐	宮本 早苗	宮本 晴美	森本真由美
山本 恵美	米沢 佳余	渡辺 千栄	浦 貴美
千石貴美恵	井村 信子	和泉かなえ	長井 由江
西崎ひろみ	注連みゆき	川上 善生	大森三紀代
奥田みゆき	盛山佐智子	宗田知津子	森本 純子
澤野 裕子	古川 和美	杉本千枝子	中筋 良江
船崎 末子	仁尾 郁代	関根 史子	中筋 滋子
竹中喜代子	近藤マサエ	三浦富美代	大野 照子
田中 敬子	尾形 正明	河野 静江	藤原 育代
出口末喜子	坂野 雅子	稲井 国雄	重本 忠雄

山川真紀子	石丸 葉子	佐川 由美	相城 禮子
西岡 恵子	佐藤 一美	菖蒲 和代	若木 恭子
豊浦 佳子	松永 裕子	島田 敏江	宮崎三和子
井上 康子	須藤 和子	由利 里子	斉田 寿子
頼野よし子	大石加代子	西尾与志子	宮田久美子
畦地 佳子	宇多 千秋	仁木 文子	岡田 妙子
細川 陽子	北橋 栄子	上村 瑞恵	内橋 里佳
上杉 好恵	大櫛 明美	西木久美子	青谷 薫
古川 恵巳	中村美智代	高見 典子	長田 千尋
立花みゆき	称木真佐子	堀渕 信子	竹内 英子
小浜 雅子	佐川 公子	河野紀代子	川下 四郎
薄田喜代子	福井 嘉代	手島佳容子	大野香代子
倉本 節子	赤川久美子	内藤久美子	湊 泰子
東 弥生	井内 光子	杣友 豊市	

◇ 近代詩文の部

〔特 選〕	坂本 霄風	豊田 乾香	
〔準特選〕	横谷 清亭	浜 佳香	多田 清芳
〔秀 作〕	佐藤 正江	上野登代吉	平岡 郁子
	久米 安弥	佐原 武子	佐野 泰子
	豊田佳代子		高岡 清
〔入 選〕	天野 裕子	高木はるの	和田富美子
	森岡 禎子	大崎 辰雄	折田 浩子
	木田 史子	産田 澄子	高橋美知江
	板東タマエ	富川 博之	米澤 美穂
	丸岡 良子	春川 登	河野 富子
	桑村 清	秋田 信子	大島 清子
	川又 敏春	中島 和子	長江 裕子
	住友 勝子	中野 茂	野村 正勝
	正木 民江	清重 和雄	川端喜美子
	斉藤 房子	佐々木美香	楨本 理
	青柳ひでの	加島 俊彦	山下 浩美
	清水三智子	清水 義文	松本 栄次
			山口 文子
			豊田 米子
			竹田 照子
			篠原 和枝
			中野美知代
			近下 守
			西田 由美
			内山 真弓
			木元ユリエ
			竹内さい子
			箭田 忠則

◇ 前衛の部

〔特 選〕	田中 秀翠			
〔準特選〕	竹内 秀翠			
〔秀 作〕	一宮美代子	枅富 年子	林 浩一	田村 利明
	坂本 光廣			
〔入 選〕	前川 益江	佐々木 愛	溝渕久美子	宮本 仁
	佐藤 美和	山本 尚美	松村 裕子	池田紀代子
	真鍋 禮子	西川 由美	森 美代子	谷崎 計治
	伊丹 明美	木内夫佐子	新見 隆義	南本 文子
	竹内 政美	坂口 義隆	山田 幸司	八光 秀美
	谷口 昌代	馬場 康雄	滝本 真理	

デザイン

〔審査員〕	亀倉 雄策			
〔特別出品〕	坂本三千一			
〔大 賞〕	齊藤 繁次			
〔特 選〕	井上 稔	渡辺 美幸	中川 道代	
〔準特選〕	木邑 智子	福島 徳子		
〔入 選〕	中川 武博	増田 和夫	石田 武	齊藤志津子
	齊藤 繁次	木邑 智子	朝比 祐二	佐藤 京子
	池 善子	橋本 京子	正木 江里(2)	溝田 治郎
	若山 直美	田邨 哲男	吉本 實	福島 徳子
	高倉 邦夫	恩地 實	日野美千代	内山 敏子
	浅野 昌哉	太田 吉昭	岡本 清治	福島 康仁
	渡辺 和寿	辻 美幸	水野 優子	橋本 純子
	増田 智子	渡辺 祐治	竹居 美奈	中井千鶴子
	美鳥 悦子	寺本 礼子	齊藤 剛(2)	森田 早苗
	重清 嘉宏	前野 淳二	宮本 光夫	阿部 久子
	木川 隆志	立石 綾子	木田 美恵	

招待・無鑑査・特別出品規定 (昭和51.6.13制定)

☆ 次のものを招待とする

- 1 無鑑査出品を3回以上得たもの。(ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選の受賞ないときは失格)

☆ 次のものを無鑑査とする

- 1 特選を連続3回得たもの。
- 2 第1回より年回を問わず特選を5回得たもの。(ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選の受賞のないときは失格。準特選2回をもって特選と同値とする)
- 3 前回展の無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

(注) 同じ年回に特選及び準特選を重賞した場合は、それぞれ特選及び準特選を1回得たものとする。

また、特選と準特選を重賞した場合は、上位の賞を得たものとする。

☆ 次のものを特別出品とする

- 1 理事会で認めた会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員。
- 2 理事会で認めた各部会長、顧問、参与。

(注) 1 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、理事会で認められた事由がない限り、その資格を失うものとする。

2 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

3 この規定以外で審査をうけず出品する場合は、理事会の承認を必要とする。

< 特 集 >

県展座談会から

(昭和60年11月5日徳島新聞に掲載された記事の再掲です)

語 る 人 (敬称略・順不同)

平沢いさむ (洋画)	福島 正仁 (写真)
坂東 文夫 (彫塑)	田中 双鶴 (書道)
新居 猛 (美術工芸)	萩野 行夫 (日本画)
坂本三千一 (デザイン)	清水 博 (県美協事務局)
司会 川崎 昇・徳島新聞社文化部長	

県内の美術の秋を飾る第40回県美術展(県美術家協会、県芸術祭執行委、徳島新聞社主催)が9日から県郷土文化会館で開催する。昭和21年にスタートして40年一。第1回の総応募点数が356点だったのが今年は7部門2,398点と史上最高になり、大きく成長して来た。その間、総合公募展として県美術界のレベルアップに寄与し、多くのファンを楽しませた。県展を抜きにして本県の美術は語れないといってよい。しかし、40回という一つの節目を迎え、さまざまな問題、課題にも直面している。県美術協関係者の方々を徳島市内の前川記念館にお招きし、初期の思い出から今後の県展のあり方などについて話し合ってもらった。

入場者が5万人

一まず県展の生い立ち、草創期のお話から一。

平沢 この出席者の中で第1回に関係したのは私と福島さんですが、第1回は終戦の翌年の昭和21年11月23日から4日間、徳島市内の丸新百貨店で開きました。洋画、日本画、写真の三部門です。思い起こすと当時は徳島市も戦災で一面の焼け野原。ガレキの山があちこちにあり、バラックがようやく建ち始めたという状況でした。丸新も外郭だけが焼け残り、内部はガラスンドウ、床のセメントははげ落ちていて薄暗かったですね。

そんな焼け跡の中で、何か文化の灯をともしたい、美術展をやるうじゃないかと、呼びかけ人になったのが当時、徳島新聞の文化部長だった蒲池正夫さん、徳新で絵を描いていた長井公雄さん、写真の福島さん、それに商工会議所会頭だった原菊太郎さん(徳島青年美術家クラブ会長)たちです。長井さんのお話によると、費用については、徳島新聞に前川静夫氏がおられ、千円出したとか、出そうじゃないかということでした。原さんは“金の問題は何とかなる。実行あるのみ”と言って、商売の材木を提供され、ガラスンドウの丸新に展示壁面を作った。全く原さんの実行力と蒲池さんの英知が相伴って県展が発足したと私は思っています。私は家も画材も焼失、焼け残った工場を鉛筆でデッサンし、出品した思い出があります。

福島 写真店も徳島市は焼けてなく、小松島市にはあった。だから写真の出品者はほとんど小松島でしたね。

—出品者の方も苦勞なさったと思うのですが、反応は？入場者は約5万人という話もありますが。

平沢 文化や美というものに飢えていたというか、入場者が殺到し、満員札どめの状況でしたね。第1回の初めは無料だったが、洋面の審査員の野間仁根氏が“無料はいかん”と言うので、確か3日目ぐらいから3円の入場料を取ったが、それでも多数入った。初期から中期にかけては、たくさん入場しました。

第2回に6部門

荻野 私は第2回から出品しているのですが、リヤカーで作品を搬入したりしていました。第2回の入場料は大人10円、子供5円、第6回は30円とインフレで上がっています。

清水 第1、第2回は徳島新聞社の主催で、23年に県美術家協会ができ、第3回から共催になりました。そして第2回から書道、彫塑、美術工芸の3部門が参加、6部門の総合美術展になり、会場も丸新と徳島デパートで開かれた。

田中 書道は当時、一般の人と教員の書道がはっきり分かれていてミゾがあった。県展でミゾを埋めたいと、私と佐々木東雲さんが何回も新聞社を訪れ、蒲池さんに参加をお願いした。“やって行けるのか”“やれます”ということで実現した。初参加の第2回は佐々木さん、富永肩峰さん、私の3人で審査したが、第3回から県外審査員になり、香川から田中白村さんという著名な書家をお招きした。私はその時、特選になり、その感激は今だに忘れられません。紙に不自由しましたが。

坂東 初めのころ、彫塑は見すばらしかった。彫刻の積み重ねというものになかったんです。蒲池さんに“やれ”と言われて、私と太田三郎さんと審査したが、単なる模写みみたいな作品が目立った。モチーフも達磨(だるま)さんとか、やぶとトラといったふうな……。受付から陳列、作品の返却まで一人でやった記憶があるが、点数も少なかった。会場の片隅に邪魔にならんようにポツリポツリと展示したものです。前川さんや原さんから“彫塑は質量ともにもっとどうにかならんのか”と言われたことがあります。

新居 私が美術工芸に出品したのは第7回からで、そのときは展示されたのはわずか5点。美術工芸の歴史の中でも最も出品数が少なかった。寂しい感じでしたね。

坂本 デザインは46年の第26回から参加。マスコミヤデパートで働く者たちなどをつくっていたアートデザイナーズクラブというのが母胎になって参加しました。だから当初は名称も商業美術でした。

平沢 そのころ高校生あたりでデザイン熱が高まり、関心が強くなっていた。県美協理事会で“デザインをぜひ入れてくれ”と強く主張したことがあります。

会場芸術に育つ

—40年という作品の傾向や質も変化したと思うのですが。

荻野 日本画は初期は床の間に飾るような作品、絹地に描く人なんかも多かった。水墨画も目立ちましたね。第31回ごろから中央の影響を受けて厚塗りの作品が出てきた。若い人も進出するようになりました。今もそういう傾向が続いています。

田中 書道も初めは床の間に飾る軸もの作品などが多かった。会場芸術としての効果を狙ったような作品は少なかった。しかし、炭山南木さん、手島右卿さんといったような日展審査員クラスの書家を審査員に招くことで、すごく刺激された。中央展の影響も受け、会場芸術作品が増えていきましたね。県展が県書道界のレベルを引き上げたといつてよいでしょう。中央とのつながりもできるし……。

平沢 洋画は初めは写実がほとんどだったが、今もそうです。前衛的な作品が少ない。保守的な県民性を反映しているのか……。洋画は第1回から県外審査員だが、お世辞で“堅実な作品”と言われるんです。技術的には初期は素朴だったと思うが、今は非常に向上している。全体の水準はアップしているものの、今は若い人に覇気がない。中期、第20回ごろまでは若手に覇気があって百号以上の大作を4点も5点も出品していました。

福島 写真も初期は入選作でも程度が低かった。今は非常にレベルが高い。しかし、作品のモチーフは変わっていませんね。九分九厘変わっていない。

坂東 第10回ごろまでは彫塑は県展の邪魔ものみたくて作品もよくなかったが、その後マシンなものが始まった。若い人に“自分の求めるものを自分で作ってゆく”という傾向が見られ出した。これは徳大の学生じゃないか、どうもそうらしい。これを何とか育てたい。徳大には彫刻の専門家がいなかったので原さんと相談するなどして私が徳大に行くようになった。そして、かなり本格的になっていったと思います。幅も広くなり、うまくなった。しかし、やはり何か情熱が薄れてきた感じですね。

平沢 坂東さんが徳大に行かれ、素質のよい学生を皆かっぱらってしまった(笑い)。絵をやめて彫刻をやる。その結果、徳島彫刻集団もできた。

清水 美術工芸はどうですか。

新居 いろいろあった訳ですが、釜床誠一さん(県美協美術工芸部会長)が東京芸大に国内留学されて金工をやられたりし金工が目立ちました。そのあと第21回の時、陶芸家の内田邦夫氏が審査に來られました。そのころから焼き物が盛んになった。今も焼き物ブームが続いています。

新人の“登竜門”

—今後の問題とかかわるのですが、県展の性格、位置づけについて。

平沢 私は県展の意義をこう考えます。第一に現在グループ展や個展が盛んだが、県展は年に一度の総合展だ。皆が参加を—という意味ではお祭りといつてもよい。そのためには県展は開かれたものでなければいけない。一部の役員がのさばるようではいけない。もう一つは新人の登竜門というか、新人がさらに伸びてゆくステップの場であること。この二つの意義があると思う。だから、若い層の活躍が期待されるのだが、美大出の人なんかで出品しない人がかなりある。落選するとプライドが傷つけられるといつて出品しない。

坂本 平沢先生がおっしゃったことは各部門共通に言えることです。

坂東 学校の美術の先生になると、落選すればメンツにかかわると思う。それに創作する時間がない。気力がある者は校長とケンカしてでも絵を描く。そういうのが減ってる。

平沢 そうですね。徳大の学生時代は出品、発表していても先生になるとやめてしまう。文

部省の管理教育が影響している。先生も生徒も、もっとゆとりが欲しいですね。

坂東 先生が絵を描くことが……。

平沢 理解されない。

新居 美術の先生が県展に出品しないのは、本当になぜだろうかーと思いますね。全般的にぬるま湯につかっている感じです。

田中 書道はちょっと違います。大学を出ても県展に出す。賞を取って中央展にも出し、中央展の審査員になったりしています。

平沢 それと県展だから知事も顔を出してほしい。

田中 補助金も2百万円ぐらいつけてくれるとありがたいのですが。

平沢 美術は見返りがいいから(笑い)

新居 いや見返りはありますよ(笑い)

県外から審査員

—このあたりで課題、問題点に入りたい。審査、会場、運営などいろいろあると思いますが、まず審査についてうかがいたい。書道は県内、その他の部門は県外に審査員を求めるなど、統一されていない。他県を見ても試行錯誤しているようだが—。

坂東 私は13回まで審査員を務めたが、それ以後やめている。なぜかと言うと、徳島大学で私が指導した学生の作品を私が審査して特選にすることは、人から見れば身内でやっている、ということになり、不公平な気がする、と考えたからだ。それに同じ審査員が続くと審査員も自分中心になり、狭い範囲でしか見れなくなる恐れがある。そこで、県外から抽象と具象を交替に招き、入落関係なしに審査員を囲む会を設けているような意見を聴き、話し合うことを提案した。その後、詳しい事は知らないが、いまもそれが続いていると思う。

平沢 審査はあくまで公平でなければならない。洋画部は一貫して県外からいろんな審査員を交代で招いている。香川、高知は初期は県内審査員だったが、弊害が出たので県外審査員になった。愛媛は県内派閥が一年交代で審査しているが、派閥意識や師弟関係など弊害が出ている、と聞いた。坂東さんも言われていたが、洋画部でも審査が終わったあと自分の作品を審査員の前に持って行って批評を聴く時間を設けている。ところが、これを利用する人が案外少ない。こういう時間をもっと利用して欲しいですね。

福島 県外から招いている。3、4年から6年ぐらい同じ審査員が続くことがあるが、写真の場合は続けて見てもらった方が指導してもらいやすい面がある。片寄りや弊害はない。32、33回は2人来てもらい、以後は1人だったが、こっちは40回を記念して2人招待。落選したのはどこが悪かったかなど、複数の意見を聴かせてもらった。出品者の参考になったようだ。

改革進める書道

—書道の場合、いろいろ取りざたされ、今回は引き続き県内審査員で審査したものの、審査員を大幅に増員すどなる、一步前進したように思うが、いかがでしょう—。

田中 初めにお話したように3回から11回まで県外審査員を招いていた。その後、県内審査員に切り替えたのは県外審査員に対する不満が出たためです。例えば、出品者が審査員に直接

交渉し、審査会場で審査員が名前を書き入れたメモを落とす、ということがあった。実際の審査結果はメモの内容と違っていたのでよかったのだが……。また、初出品で特選の第一席になる、というケースがあり、特選になった人は今度落選したら困る、というので出品しなくなった。これは県外審査員であると、県内の実情もわからないし、自分の思う存分にやれば良い、ということでそういう結果が出るのだらうけれど、県内の書道の正しい育成のためにはプラスにならない、と委員会に諮ってわれわれだけで審査することに決め、現在に至っているわけです。

一県内審査員になって以降、それまでの書道一本から漢字、仮名、近代詩文、前衛の四部門に分けたのですね。

田中 そうです。審査については、入落は部門ごとにして、入賞については総合的に合議で行う、というルールが決まった。審査員の一部入れ替えや副審査員制度を設けたこともあったが、いずれも委員会で決議したことで、一部の独断横暴によるものではなかった。

平沢 私は書道も県外審査員にすべきだ、ということを主張して来た。書道の特殊事情はよくわかったが……。

田中 ことし七月ごろ、審査員に関する指摘の記事が徳島新聞に掲載されたが、実は昨年の県展のあと私が、書道部に改革するところがあれば改革すべきだ、と検討委員会の設置を提案していたんです。2回ほど開いて将来の県展書道のあり方を審査員の問題も含めて検討した結果、ことしは審査員を出品点数に応じて漢字3人、仮名4人、近代詩文2人、前衛1人の計10人に増員。いままで非公開だったが、全部公開した。それと入賞については、審査員一人ひとりが採点して、トータルの高い順から取っていった。他部門に比べ審査員の人数が10倍にもなり、変な状態だが、今回は取りあえずこういう形を取った。厳正公平に審査できたと考えている。

一次回からはどういう形を取られるのか、できればお聞かせ願いたい。

田中 私個人としては 県外審査員を導入しなければならない時期だと考えており、来年からは県外審査員を、と思っている。しかし、各部門ごとに審査員を招くことができるかどうか、経費面での問題もある。いずれにしてもここらですっきりして他の部と 同歩調でいくことを念願している。

一審査員について他の部ではどうでしょうか。

新居 いままで出品者から苦情はありません。

荻野 私の方も中央の日展とか院展とかの審査員級の人を将来も引き続き招きたい。昨年までたまたま院展系の人が三年続いたが、ことしは日展系の人を招いた。これからはできるだけ交互にお願いしようと思っています。

坂本 審査員の人選は、県美術家協会デザイン部の部員14人から希望を募り、毎年、変わった人に来てもらっている。審査に弊害はないと信じているし、特に、厳正にやろうということ、審査員と出品者を事前に接触させない態度で臨んでいます。

どうする入選率

一次に審査の内容についてですが、部によっては出品者の70—80%が入選しているやに聞く

が、質的に問題があるのでないか。もっとも入選者を増やすことによって出品者が増え、県展が広く親しまれる、という効果はあると思うが、県展の権威のためにもそろそろ厳選してもいい時期が来ているのでないか、との気もする。このまま続けていって底辺の質の向上が望めるか、という問題もあると思うのですが一。

平沢 ある時期、県展はお祭りだからできるだけたくさん取りなさい、という声があった。しかし、県展も40回を数えたので、質も考えていくべきだろう。

一入選率についてはどうでしょう。

平沢 洋画は第1回は153点のうち32点が入選するだけ、という厳しさだった。昨年は250点のうち100点が入選しているが、与えられた会場のスペースに応じ、入選数を考えるべきだと思う。(入選作品だけ展示するため)

田中 入選率は出品点数が100点以上40%、100点以下60%と決まっているが、この線でのいいのではないか。

新居 奨励の意味もあり、現状で良いと思う。

清水 これまでの書道のように、例えば500人が1人2点ずつ計1000点を出品した場合、1人1点ずつ全体の40%入選させると、人数では実質80%の入選率になる。しかし、場所的な問題もあり、入選率は出品点数を対象にするのもやむを得ない。

一会場の問題が出ましたが、総合展といわれながら会場の都合で一期と二期に分けざるを得ない状態をどう考えておられるか。一期の一部門は四階の方に分離せざるを得ない現状でもあるのですが、これらについてご意見をうかがいたい。

平沢 四階へどの部門が行くか、いろいろ試みて来たが難しい問題。徳島新聞社に一任している。

清水 見る方からいえば、一期一会場で開催するのが一番望ましい。

坂東 会場問題に関連して言うと、彫塑の場合、狭い会場に無理して運び込むより、屋外で制約されことなく展示した方が面白いということになってきた。県展の内容を今後、良くするということがあったら、入選を半分ぐらいにして一期でやれば良い。逆にお祭りにするのだったら何日やってもいいのではないか。

田中 ある程度、スペースを与えていただければ一期でも良い。書道関係者だけでなく他の部門の人にも書道を見ていただけて非常に良いと思う。問題はスペース。

新居 徳島市シビックセンターも使って一期にしたらいののではないのでしょうか。

平沢 シビックセンターの完成で会場問題は解決できた、と思ったが、別の会場でやるのはいや、という声が出た。シビックセンターにふさわしい部門もあると思うので、来年あたりから利用したら良いと考える。

坂本 総合展としての相互作用を期待するうえで、全部門が同時に見られることが望ましい。シビックセンター利用を考える前に郷土文化会館の四階大会議室が使えないかまず検討すべきだ。

一運営そのものについて改善余地はあるのでしょうか。

清水 徳島新聞社と県美術家協会のそれぞれの持ち分が自然に決まってしまうと、筋が通ら

ないようなところもある。県展はこういうふうにするんだ、という規格を持って別組織の運営母体をつくっていかないと、結集した総合展になっていかぬような気がする。開催規約もつくるべきでしょう。

一確かに県展を全体的に見る組織があるのでないか、と思います。四国の他の三県を見ると、愛媛県は美術家協会がリーダーシップをとってやっているが、問題点が色々あるようです。香川県は県が運営。高知県は審査員の選定から会場、運営、予算まで高知新聞社の100%運営になっています。

平沢 香川県は出品料も無料。一般と受賞者を各二期に分けて都合4回開いている。会場費も無料だと思う。

勇気を出し出品

一運営の問題のほか、会場問題も浮き彫りにされたが、7部門を一期で郷土文化会館で開くにはまず、坂本さんのおっしゃったように四階大会議室の利用ができるか、どうか、会館側と接衝すべきでしょう。また、坂東さんから指摘のあって彫塑の展示は制限を受ける件についても、会館横の県民広場が使えないかどうか検討してもよいのではないかと思います。このほか、これまでお話をうかがって来て、出品料を安くしてたくさんの人に出品してもらおうのが、県展としてふさわしい感じもしました。そこで、最後に出品者に対する希望を一言ずつおっしゃっていただいて締めくくりたいと思います。

坂本 合作でもいい。カラを打ち破った作品をたたき出してもらいたい。

荻野 このところサロンの作品が目立つが、伸び伸びと大胆な構図のものを勇気をもって描いて欲しい。作品を前進させるためには会場芸術の経験も踏むことが大切なので思い切ってどんどん出品していただきたい。

新居 自分の意思を発表するつもりで作品を出して欲しい。私はこれぐらいが限度、と思って出している人がいるが、そんな事では進歩がありませんから。

田中 基礎力を十分につけ、イミテーションでない自分の作品をつくるとともに大作に挑戦していただきたい。

平沢 小さく固まったものでなく、若い人の創造的な作品を期待したい。

坂東 皆さんが言いつくされた。

福島 別にない。

一長時間、どうもありがとうございました。

県展応募点数の推移			日本画	洋画	写真	彫塑	美術 工芸	書道	デザ イン	計
	21年、1回展	58	153	145						
22年、2回展	53	230	180	20	22	121				626
30年、10回展	36	264	661	29	31	117				1138
40年、20回展	73	321	335	58	73	326				1186
46年、26回展	62	307	480	36	63	577		95		1620
50年、30回展	62	271	745	44	69	604		115		1910
59年、39回展	89	256	664	48	104	1082		81		2324
60年、40回展	105	299	642	46	98	1123		85		2398

總 目 錄

第一編 總論 1

1

第二編 經濟學 1

各 部 記 錄

日 本 画 部

部 会 長 荻 野 行 夫

年 間 展 望

◎ 第26回 博美展（第3期 5/29～6/2 県博物館）

応募点数は前年度の25回記念展には及ばなかったが、作品においては今展も粒ぞろいの力作が搬入され、レベルにあっても毎年のように向上して来ているのが認められた。

博美賞になった鶴悦子「兄と弟」は前年度の記念大賞に次いで今展も子供を扱った題材を採り、日頃の子供に対する愛情感性がよく現われていてソフトに仕上がり好作であった。優秀賞の井原順子「青柿」は新鮮な色調で柿に人物を配した特色のある作品で今後の進展が期待される。同じく優秀賞を得た滝口信一「夕映」は気の済むまで描いた夕映風景で雰囲気表現に苦勞のあとがうかがえ努力作であった。その他に後藤田実、林幸子、永田佳奈、山口敏子などの作品が印象に残った。（応募点数33点、入選26点）

◎ 第41回 新作日本画展（7/5～7/7 県郷土文化会館）

毎年恒例の部会展で今回で41回目の開催となるが、それぞれ個性的で自由な作風によって精神的な作品を発表されて好評のうちに3日間の会期を終えた。

例年通り委員による投票制で新作大賞のほか優秀作品13点を選び会期最終日には会場において関係者参集の中で表彰式を行った。

（新作大賞）「初夏の浜」津田津保三

（新 作 賞）「華やぐ」鶴悦子、「春すぎて」高田愛子、「林」岡正明、「玄想」岩佐美那子、「晩秋夕ぐれ」増田澄子

（佳 作）「比叡山」谷川智恵子、「秋山」高部谿仙、「緑陰奇岩」木村彩雲、「むくげ」森脇泰子、「翠陰」原田健彦、「おにゆり」安淵清子、「鶏頭」明石興子、「石仏」秦照子

◎ 40回 県美術展（11/9～11/14 県郷土文化会館）

審査には、いま日展で伝統的な水墨画を現代に蘇生させて新しい風景画を作り出され感覚的な造形表現で発表活躍されておられる下保昭先生が日展の会期前とあって制作に大変ご多忙な中を格別のご厚意によって、審査にお越し頂くことが出来た。

逐年ごとに作品が大形化して来ているが今展では特に40回展とあって大作が全体の半数を占めるに至り、作品そのものも近年になく極めて充実したものが搬入され県展にふさわしい本格的な会場絵画を並べることができ、今後における県展の発展が更に大きく期待されるのが実によろこばしい限りであった。審査の総評は会期中に新聞紙上等で掲載されたが再びここにも記録に残しておきたい…。作品のレベルは予想を上回っていた。都会的な作品や新しいもの、本格的な作品も見受けられた、見捨てたものじゃないという感じ。真剣に勉強しているのは良いことだ。申し上げたいのは、絵は頭で考えても良くならない。体でおち当たって描くべきだということ。描いて会得してゆく。自覚しながら人の3倍描くことだ…。

大賞「雨の日」岡英彦、特選「晩夏」上原圭子、「曙」土井洋子、「早春」西野和男

準特選「晩夏」秋元よし子、「薄日」津田津保三（審査対象搬入点数105点 入選42点）

以上のほかに中央展をはじめとし県内外での諸展観行事に参加され精力的な活躍をされたなかで春の日春展には岡英彦氏が奨励賞を受賞、9月の大阪有秋会では森蔦苑氏が有秋会賞を、また10月の日展に橋本正弘氏が入選されており、それぞれの皆さん方に心からのお喜びと今後ますますのご発展をお祈りしたい。

なお諸展を開催され、あるいは出品参加された各氏を次の消息欄で紹介したい。

<消息>

- | | | | |
|----|--------------|-------------|--|
| 1月 | 徳島画壇小品展 | 徳島そごう | 委員7名参加 |
| 〃 | 日本画洋画新春展 | 鳴門四電ギャラリー | 村上凌雪・高田瑞雪 |
| 2月 | 第30回画展ふるさと | 県郷土文化会館 | 矢野・高田・篠原・森・長谷・佐藤 |
| 3月 | 第20回日本墨彩画院展 | 香川県文化会館 | 篠原・森・高田・長谷・矢野 |
| 〃 | 第6回むや園日本画展 | 鳴門四電ギャラリー | 高田瑞雪及び塾生出品 |
| 〃 | 第25回日本南画院展 | 東京・京都・大阪美術館 | 森・村上・篠原・長谷・矢野・高田 |
| 〃 | 第9回色紙小品展 | 眉峰ギャラリー | 篠原三叢 |
| 〃 | 第14回徳島市文化展 | 県郷土文化会館 | （徳島市長賞）上原好子・（市議会議長賞）鶴悦子・（教育長賞）福田佳代子・（徳島新聞社賞）高田愛子・（文化協会賞）江上豊溪 日本画部出品点数66点 |
| 4月 | 第20回日春展 | 東京銀座松屋百貨店 | 岡英彦（奨励賞・受賞） |
| 5月 | 第2回日本画洋画選抜展 | 鳴門四電ギャラリー | 高田瑞雪 |
| 〃 | 第23回阿南市展 | 阿南市民会館 | 森蔦苑・篠原三叢・長谷寿ほか |
| 〃 | 小松島市美術展 | 小松島中央公民館 | 篠原三叢 |
| 〃 | 第12回恵生社展 | 県郷土文化会館 | 佐藤谿舟社中塾生出品 |
| 6月 | 第1回春彩会日本画展 | 県郷土文化会館 | 会員19名・35点出品
後藤春潮先生遺作「石仏」を追悼展示 |
| 〃 | 第10回ふるさと鳴門展 | 鳴門市民会館 | 村上・矢野・田淵・高田・釣島 |
| 〃 | 日中文化交流展 | 京都市美術館 | 篠原三叢 |
| 7月 | 第59回女流美術小品展 | 徳島市民ギャラリー | 長尾・上原・木内・武田・土井・林・土方・森 |
| 〃 | 第8回国際交流画展 | 京都市勧業会館 | 篠原・森・長谷・佐藤ほか |
| 〃 | 第15回胡粉会日本画展 | 四電相談センター | 会員17名出品 |
| 8月 | 吉野川治水100年記念展 | 県郷土文化会館 | 高岡・長尾・斉藤・日浦・吉崎・土方・鶴・後藤田・滝口 |
| 〃 | 絵で見る徳島展 | 県郷土文化会館 | 矢野・篠原・森・高田・長谷
佐藤・今川 |

8月	第14回中央展出品画展	県郷土文化会館	村上・篠原・森・長谷・高田 矢野・佐藤・今川
〃	第60回県女流美術展	帯広市藤丸デパート	長尾・上原・木内・武田・土井・ 林・土方・森・寺井
9月	有秋会	大阪市立美術館	森(有秋会賞)・篠原・長谷・佐藤
10月	珀雲社日本画展	県郷土文化会館	森・篠原・長谷・村上
〃	天井絵300枚揮毫奉納	鳴門市里浦町十二神社	高田瑞雪
〃	第38回鳴門市展	鳴門市民会館	鳴門市日本画部全員参加
11月	阿南文化祭展	阿南市民会館	森・篠原・長谷
〃	天井画制作	阿南市善昌寺灌頂堂	森蔦苑
〃	第20回日本墨彩画院小品展	新居浜市郷土美術館	篠原・森・長谷・高田・矢野
〃	第17回日展	東京都美術館	橋本正弘(入選)
〃	日本画洋画素描展	鳴門四電ギャラリー	高田瑞雪・釣島冬樹
〃	小松島市美術展	小松島中央公民館	篠原三叢
〃	那賀川町美術展	那賀川町民センター	篠原三叢
〃	第13回恵生社展	郷土文化会館	佐藤谿舟社中塾生出品
12月	第61回女流美術協会展	郷土文化会館	長尾・上原・木内・武田・土井
〃	仙台文化交流美術展	郷土文化会館	林・土方・森・寺井
〃	歳末助け合いチャリティー	鳴門四電ギャラリー	村上凌雪・高田瑞雪・釣島冬樹
〃	村上凌雪個展	ギャラリーU Z U珈	村上凌雪
〃	第16回胡粉会日本画展	県青少年センター	会員出品
〃	年末チャリティー色紙展	徳島市民ギャラリー	部会委員参加

※消息欄に掲載したい事項がありましたら毎年12月末までに部会長にご報告下さい。

(部会委員会の開催)

60. 5. 12 59年度事業報告・60年度事業計画・第41回新作日本画展準備打合せ・第40回県美術展審査員の交渉について
7. 8 第41回新作日本画展審査会・第40回県美術展開催要項について
10. 20 県展の審査を終えて審査員を囲む会
11. 8 県展飾付及び反省会
61. 1. 15 第40回県展の経過報告・第27回博美展運営委員と61年度協会の総会代議員選出について

洋 画 部

部 会 長 平 沢 い さ む

年 間 展 望

◎ 本年度の県展は第40回展で、記念すべき年であった。洋画部では、出品数、昨年度より43点の増加、搬入299点、人数192人、入選106点、大作の出品も多く、1人で3～4点を搬入する者もあった。全体のレベルも向上し、水準下の作品が少なくなってきたのは、本年度の特色であろうか。

審査員は、西宮市在住の非具象絵画の津高一画伯、画伯は、「絵は心の驚き」という。

審査に立合って、発想としての、作者の意図の明確さ、作者は何を表現したいのか、何に美を感じて描いたのか、それが造形に如何によく表現されているか、たゞばく然と描写したような作品は落ちたようである。

その後、画伯は読売新聞に、徳島での審査の所感を寄せられているが、その一部を抜粋すると、「…責任の所在、独自の視覚の角度、すべて個性的だった。情実など介入する余地もなかった。…約300点の作品が、次々と、入選と落選に分かれてゆく現実を人々は直視できるということだった。これはまた、審査する私の姿勢や思考が、如実に反映し、露呈していて感得できた、…流行に対する意向なども、地味な動きをしていて、その点はなるほどと思うのである。自分の物さしを持つことの必然を、いずれ知ることを思うのだが…」

(企 画 展)

- ・第2回 県画壇小品展 1/2～10 そごう5F
- ・新春洋画と版画展 1/10～30 徳島画廊
- ・エコール・ド・パリー三大巨匠版画展 1/18～22 そごう5F
- ・鈴木信太郎自選展 2/2～16 そごう特設会場

画伯は本年91才、現代日本洋画壇の老大家、代表作をまじえての展示、初期から一貫して、アンチームな画風、天性のカラリスト、素直に、親しめる展観であった。

- ・第31回「画展ふるさと」 1/9～11 郷文
- ・長女マヤの秘蔵コレクション・ピカソ展 1/9～31 郷文
ピカソ、14才頃から既に古典をマスターした、天才としてのひらめきのある作品、各時期での変貌と変遷はあるが、一貫して決断力と、創造力は世紀の大天才の仕事である。素描作品のすばらしさにも感動さるる。本年度、企画展での圧巻であった。
- ・第2回 徳島県美術家協会洋画部会員展 2/22～26 シビック
- ・第10回 色紙小品展 1/18～24 眉 峰
- ・県出身美術家展 2/9～16 そごう8F
- ・第4回 徳島平和美術展 4/2～7 郷 文
- ・森田 茂個展 4/21～23 そごう特設

画伯は、芸術院会員、日展の作家、苦渋な、追求の跡に味わいがあった。

- ・洋画小品、秀作展 5/2~8 そごう5F
- ・第38回 示現会展 5/10~14 郷文
- ・大井現代洋画秀作展 5/17~20 郷文
- ・ONNA展 5/18~30 眉峰
- ・ヘンリー、ムア版画展 5/23~28 翠峰
- ・現代洋画大家秀作展 5/24~29 そごう5F
- ・木村光佑の世界展 6/6~16 郷文

若い作家だが、既に幾多の国際展で受賞している。シルクスクリーン、リトグラフ、エッチングなど、多様な版技術を駆使した、現代版画の作品、レイアウトの巧みさと、新しい感性を堪能させられた。

- ・現代洋画ミニチュア展 6/7~12 そごう5F
- ・徳島ラジオ商事件支援のための美術展 6/8~10 シビック
- ・現代洋画人気作家展 6/22~26 そごう5F
- ・第2回 フランス絵画展 7/5~8 そごう5F
- ・現代洋画、日本の四季展 7/19~24 そごう5F
- ・中川一政版画展 7/25~31 そごう5F
- ・秀作版画大バザール 8/2~20 眉峰
- ・エミール、ガレ展 8/2~7 そごう5F
- ・第14回 絵で見る徳島展 8/4~18 郷文
- ・第14回 中央展出品絵画展 8/4~18 郷文
- ・現代洋画選抜展 8/24~28 そごう5F
- ・第34回 全大蔵四国地区美術展 8/24~25 郷文
- ・版画期待の新人、大家作家展 10/1~7 眉峰
- ・エコール・ド・パリ-20世紀の巨匠絵画展 10/18~23 そごう5F
- ・近代版画の流れ展 10/23~29 郷文
- ・現代洋画サムホール展 11/1~10 眉峰

大正期から現代までの版画の推移動行を見せてくれる展観であった。

(公募展)

- ・第14回 県教職員美術展 1/24~27 郷文
- ・第14回 徳島市文化展 4/24~25 郷文
- ・第26回 博美展 5/15~19 博物館
- 博美賞(真野孝彦)
- 優秀賞(岡田光男、越久高照、島川君子、林 信夫、元木義香)
- ・第40回 青美展 9/27~29 郷文
- ・第40回 県美術展 11/9~14 郷文
- 大賞(岩佐博久)
- 特選(岡田英子、鈴江栄治、藤田倫子、平田スミ子、山口美千代)
- 準特選(賀木道子、嵯峨潤三、金原和美、岡本征二、林 伸也、吉永房子)

・第15回 教職員美術展 12/20~22 郷 文

(グループ展)

- ・第4回 那賀川グループ展 1/4~7 四 電
- ・第18回 モダンアート徳島支部展 1/5~9 郷 文
- ・第2回 昭和美術会、徳島巡回展 1/11~15 郷 文
- ・第7回 グループ創 1/16~18 郷 文
- ・瓦 礫 展 1/18~20 郷 文
- ・第13回 耽美展 2/1~4 四 電
- ・第7回 試 展 3/20~24 郷 文
- ・第3回 中央絵画グループ展 4/27~29 郷 文
- ・第9回全日本美術協会支部展 5/10~13 郷 文
- ・第8回 八紅展 5/17~20 シビック
- ・第44回 世代美術展 5/24~27 シビック
- ・ぜ ろ 展 5/29~6/2 ハラダ
- ・あーとるーむ油画展 6/17~20 四 電
- ・第31回とくしま美術グループ小品展 6/21~24 四 電
- ・第59回県女流美術協会小品展 7/12~15 シビック
- ・第13回 13人展 8/8~11 リバーホール
- ・かけはし展 8/5~8 四 電
- ・第13回「む」アート展 8/23~26 郷 文
- ・グループ「創」展 8/27~9/2 U Z U珈
- ・サロン・ド・キュー展 9/10~12 郷 文
- ・第7回 鴨島美術作品展 9/13~16 郷 文
- ・東光会徳島支部展 9/14~16 郷 文
- ・第10回 あわ洋画ぐるうぶ展 9/21~23 郷 文
- ・びほうぐるーぶ展 10/10~15 眉 峰
- ・第7回美術文化協会四国支部徳島展 10/12~15 シビック
- ・第17回 石井美術の会作品展 11/2~4 リバーホール
- ・旺玄会徳島支部展 11/21~24 リバーホール
- ・井上速男門下展 11/25~12/1 NHKロビー
- ・第61回 県女流美術家協会展 12/5~9 郷 文
- ・白鳳洋画グループ展 12/13~15 鳴門市図書館
- ・第14回 瓦礫会展 12/15~17 郷 文

(個 展)

- ・浅田二郎、油彩、水墨画作品展 1/23~28 郷 文
- ・中林忠良 銅版画展 1/13~19 翠 峰
- ・久保吉汎個展 3/21~27 そごう5F
- ・森長武雄油画展 3/28~4/3 そごう5F

- ・露口茂弘、万里親子作品展 3/29～4/3 シビック
- ・細川政広シルクロード展 4/5～9 シビック
- ・第5回渡辺俊二、記世作品展 4/5～8 郷文
- ・山田光造 石版画展 4/12～17 そごう5F
- ・元木昭治個展 5/2～7 翠峰
- ・鈴木山賊洋画小品展 5/21～23 シビック
- ・奥村長子個展 5/23～26 郷文
- ・笹尾文雄油画展 7/9～12 四電
- ・鉄谷 誠油画個展 7/11～16 丸新
- ・井上朋弥デッサン、小品展 7/12～21 シビック
- ・木藤好春阿波踊り油画展 8/10～16 四電
- ・宮佐由紀展 8/15～21 そごう5F
- ・鈴木マサハル油画展 8/31～9/4 そごう
- ・井上公三 版画展 9/7～11 そごう
- ・和気史郎展 9/10～16 UZU珈
- ・松下 武、照美 油彩、陶二人展 9/13～16 シビック
- ・加島幸典個展 9/17～23 UZU珈
- ・第10回 ふじいあさ個展 10/16～20 シビック
- ・第9回小林今治油画○号展 10/17～20 四電
- ・林 伸也個展 11/1～12/28 喫茶ブリーマ
- ・松尾文隆個展 11/1～5 和光
- ・鈴木山賊第20回記念個展 11/14～19 丸新
- ・平尾美智子個展 11/18～28 池田ジャスコサンライズ
- ・湯山俊久油彩展 11/22～12/1 眉峰
- ・林 伸也展 12/1～1/5 喫茶トマト
- ・仁宇暁子個展 12/24～31 UZU珈

(行事)

- ・第2回 洋画部会員展
日 時 2/22～26
場 所 シビックセンター
出品者 71名
- ・第19回 徳島県芸術祭
優秀賞(松尾文隆、仁宇暁子、三好初子)
新人賞(松下 武、松下照美、山口美千代、尾崎素子)

(会員、個人消息)

- 河田 安市 白日会出品
- 松尾 彰滋 白日会出品
- 下時治郎秀臣 白日会出品

平尾美智子	二科会入選
佐野比呂志	独立展出品
	全日本美術協会展出品
藤川 明子	全日本美術協会展出品
山口 和子	全日本美術協会展出品
堀切 篤子	全日本美術協会展出品
中村 晴代	全日本美術協会展出品
岡田 守	全日本美術協会展出品
林 信夫	全日本美術協会展出品
富野 徳	旺玄会出品
賀木 道子	旺玄会出品
清水 亟悞	モダンアート展出品
	現代洋画精鋭選抜展銅賞
	日米国際親善美術展第3位市長賞
仁宇 暁子	形象派美術協会展出品、愛知県知事賞
	N D I デッサンコンクール最高デッサン賞
	国際選抜カルトン展出品
四宮 久子	二期会入選
	二期会選抜展出品
中辻奈美技	二期会入選
福野 稔	新世紀美術協会展出品
大神 良代	自由美術展入選
	自由美術会員推挙
黒崎 志郎	示現会出品
岡久 薫	示現会出品
島村 英之	示現会入選
北島 溢美	示現会入選
河野 太郎	東光会展出品
浅田 二郎	東光会展出品
石原 弘	東光会展出品
尾崎 素子	東光会展出品
毛利 谷子	東光会展入選
三好 初子	東光会展入選
今田 史男	美術文化協会展出品
	フランスニース個展
後藤田仁一	美術文化協会展入選
	美術文化協会準会員推挙
永山 隆二	美術文化協会展入選

美術文化協会会友推挙
騎馬 政美 美術文化協会展入選
岡 多実子 新象作家協会展出品
帯広市で文化交流親善美術展を開催
津地 威汎 国画会出品
橋本 政典 現代美術家協会展入選
斉藤 靖子 日本版画院展入選
板東 弘憲 二科会展入選
多田 青叙 一水会出品
松川 寛 モダンアート展出品
浜口 恵 モダンアート展出品

《故 桜木秀男氏》

4月6日に心不全のため死去 80才

氏は昭和12に徳島青年美術家クラブを結成、31年から21年間県美術家協会会長を務め、県美術界に大きな役割を果たした。

《中間 冊男》

3月4日 死去 76才

氏は独立美術家協会の古い会員、本県には第28回県展審査員として、ご来県された。

写 真 部

部 会 長 西 條 征 二

年 間 展 望

1 県展発足以来早くも40回記念県展を迎えました。これを記念して大阪芸大教授岩宮武二先生及び大阪芸大助教授高田誠三先生の御二人に審査をお願いし出品者に好評であった。毎年向上の一途をたどり、中でも新人の進出がめざましいものがあり、入選率も27%となった。「全般的に徳島写壇は難しい所に来ているという印象を得ている。ストレートに言ってよいものを技巧に走り作画にマイナス面が出ている作品が目についた。第40回記念展だから多くの力作を期待して審査したが、やや裏切られた感じがする。映像の面白さを追うだけでなく、もっとドラマ的な作品がほしかった、又カラーの作品についても、特に勉強してほしい。」と審査評として苦言もいただいている。

記念大賞に荒井賢治「朝」（2枚組み）、セピアの色調でまとめ、カラーでもこんなテクニックが出来ることを示した秀作。又特選に荒井賢治「兄弟」「群れ」と大賞、特選二点を得て敬意を表したい。

高田為一「初秋のファンタジー」（2枚組み）は風物を見事に定着させた赤トンボの色などで晩夏から初秋への時の移りを感じさせる。林敏彦「夏」、佐野辰夫「祭の主演」、板井義典「舞うB」、坂田穂氏「夏」、北川麦「渚」、原田武二「疾走」がそれぞれ特選に選ばれた。

第40回県美術展表彰式（県郷土文化会館）が行われ、県展受賞者歓迎祝賀会（徳島パークホテル眉山の間）が開催された。

2 博美展は全体的にカラー作品を含めて、水準は高かった。色々な技法を研究し進歩していることが実感として伝わる。博美賞に橋本圭祐「少年」は作者の感性の鋭さが他を圧し、テクニックも素晴らしいものであった。優秀賞に安長剛「倉敷の印象」、高田為一「五月」、多田晴美「たこあげ」、折野理悦「露」、伊達照子、阿部佳史、和田俊彦が選ばれた。

3 二科会写真公募展には増田寿、中野建吉、久米健雄、森賢一、笹田敏雄、田中富美子、鈴木秀次、荒井賢治がそれぞれ入選した。

4 石井写真家協会設立記念写真講座が7月14日、石井町農業研修センターで開かれ、土屋幹男先生を招き「いまの写真」について講義を聞いた。

5 福島正仁先生の県教育文化賞受賞祝賀会が6月15日、徳島パークホテルにて催された。県写壇の生みの親、育ての親で又現役作家としてのすぐれた活躍が認められ、私たち写真界の誇りである。

6 写楽会25回写真展を祝う会が9月21日、スカイレストラン・ニュートクシマで岩宮武二、福島正仁先生を迎えて行われ、写楽会四半世紀について参加者と語り合った。

7 主な写真作品展は次のように開催された。

◎第14回徳島県教職員美術展

- 1月25日(金)～1月27日(日) 県郷土文化会館3F
写真部審査 西條征二
- ◎ナルトびんぼけクラブ写真展
3月21日(木)～24日(日) 鳴門ショッピングセンター, ジャスコ4F
テーマ 我が郷土
- ◎徳島平和美術展
4月5日(金)～7日(日) 県郷土文化会館3F
- ◎写真集団「風」作品展
4月12日～4月14日(日) 徳島駅前アミコビル, シビックセンター5F
- ◎徳島市芸術祭文化展
4月20日～4月25日 県郷土文化会館
- ◎写団「未知草」作品展
4月26日(金)～29日(祝日) シビックセンター5Fギャラリー
内容 花、生物、風景等100点
- ◎小松島カメラクラブ写真展
5月18日(土)～19日(日) 県郷土文化会館3F
- ◎ふるさと鳴門展
6月1日(土)～3日(月) 鳴門市民会館
- ◎写真同人「炎」作品展
6月14日(金)～16日(日) シビックセンター5Fギャラリー
「この作品展にも一粒の砂金が見つければこれに越したよろこびはありません」
課題写真60点、自由作品110点
- ◎光展
8月2日～4日 徳島駅前アミコシビックセンター
- ◎母なる吉野川、絵画と写真展
8月6日(火)～9日(金) 県郷土文化会館5F
吉野川治水100年記念として行なわれた。
- ◎末広フォトクラブ写真展
9月21日(土)～23日(秋分の日) シビックセンター5Fギャラリー
- ◎写楽会写真展
9月21日(土)～23日(月) シビックセンター5Fギャラリー
- ◎婦人グループ「まゆやま」写真展
9月27日(金)～29日(日) 四国電力電気相談センターギャラリー
- ◎“85” とくしまフォートアート展
10月1日(火)～10日(木) シビックセンター5Fギャラリー
- ◎美術文化協会四国支部徳島展
10月12日(土)～15日(火) シビックセンター5Fギャラリー

◎川島老眼鏡クラブ展

◎鴨島写真館クラブ展

◎日本リアリズム写真集団徳島支部展（一心一向）

11月16日～11月18日 鴨島町中央公民館にて上記三展の合同写真展

◎全日本写真連盟徳島県本部アンデバンダン展

12月5日（木）～12月8日（日） 丸新デパート6F文化ホール

彫 塑 部

部 会 長 河 崎 良 行

年 間 展 望

彫塑部の審査は、具象と抽象の作家を交互に呼ぶことにしているが、本年度は、適当な抽象作家が見当らず、昨年に続いて新制作で同じ具象系の清水良治先生に来ていただいた。

審査の総評の中に「県全体の作品展としてはレベルに物足りなさを感じた。」というコメントが付言されていた。われわれ世話人としては最もつらいところである。はるばる遠いところから審査に来ていただくのであるから、いい作品を出来るだけ多く集め、審査に臨みたいと常に願っているからである。だが現状は指摘をうけた通りであり、中堅どころというか制作経験の豊かな作家の出品が少なくなる傾向にある。それは、県下で開催される展覧会が個展とかグループ展など多様化され、力が分散されるようになったためであろうか。その上ベテランは無鑑査や招待となり、審査を受けるのは殆んど新人ということになる。これが徳島のレベルであると県外の作家に思われるのは至極残念なことである。県展が県下の中心的な総合展であるなら、もっと県内在住作家の総力が結集できるような方策を、今一度原点に帰って検討する必要があると思われる。今年は特にそのことを痛感した。

個々の評としては、松永君の「搦む石」（大賞）については「ステンレスとみかげ石の素材を巧みに生かして新しい空間を作り出している。その空間構成は素晴らしい。」と高く評価された。また、特選の蒔田君の「ポーズ」については「自然で忠実に構成されていて彫刻性のあるいい作品。」であると。原田君の「坐る」については「表現力の中に確かな技術がうかがえ大いに評価したい。」小川君の「友ーあきこ」については「ダイナミックに表現しようという作者の力強い姿勢がうかがえる。」との評であった。総評にもあったように、これらの入賞作品についてはいずれも高く評価されたが、いかにせんその他の出品者との力の差が大きく、全体的には低調の感はまぬがれないものであった。

今後は、部会活動や制作活動を通して、みんなが連携をとりながら県全体のレベル向上を計らなければならないであろう。

<個人消息>		行動美術展出品	東京都美術館
井下 俊作			
大津 文昭		二紀展出品	〃
鎌田 邦宏		〃	〃
河崎 良行		〃	〃
沢井 良昭		第一美術展出品	〃
中西 邦宏		二紀展入選	〃
浜口 恵		モダンアート展（版画）出品	〃
松永 勉		行動美術展出品	〃
蒔田 寿		二紀展入選	〃
原田 悦子		〃	〃

美術工芸部

委員新居 猛

年間展望

まず本年は永年わが美術工芸部の部長として指導してこられた釜床誠一氏が旧臘12日逝去されたことである。

氏はつとに徳島県美術教育界から矚目されて東京芸大に留学研修され、以来戦後徳島の工芸部門の先頭に立たれ今日の美術工芸部を築かれたもので、その功績は偉大と言うべきであります。部会員はまことに哀悼の念を禁じ得ず、深くご冥福をお祈りするものです。

40回県展・美術工芸部審査は東京芸大浅野陽教授により行われましたが、要は鑑賞に耐えるか、実際に使えるか、と言う二つの観点から見られたとの事で、出品には明快な指向が示されたわけであり、今後の創作に何よりのご指導を賜ったものと思います。

<審査評>

大賞の松下慶一「白化粧草文壺」は、まず形が非常によい。自然な感じで無理がなく、しっくりと落ちついている。白化粧の腕も相当なものだ。野草をあしらい秋の感じも上手に出している。持ってみて非常に軽いのは、ろくろ使いもかなり上手だということの証左で、作品全体として見るものに語りかける多くのものを持っている秀作だ。

次に、特選の井後宏「渦」彫金と七宝焼、ステンレスなどを組み合わせたパネルだが、色彩と構成が非常によい。金属の持っている力強さ、七宝焼の豊かな色彩などを巧みに組み合わせ、鳴門の渦を見事にイメージ化している点がよい。青木房江「秋色」（布絵）は、葉ゲイトウを巧みな色で表現し、構想力が素晴らしい。

染め物からは橋恵「暮れなずむ海峡」と犬伏絢「朝（あした）に」の二点を選んだ。「暮れなずむ…」は絹のつむぎのようだが、デリケートでバラエティー豊かに染まっているのがよい。「朝に」は、一本の糸を植物で染めたものを織り上げているが、その明確な構想力が素晴らしい。

<個人消息>

森 昌男	6月	藍染創作グループ展	四電ギャラリー
	7月	第20回中部染色展努力賞受賞	愛知美術館
	10月	第40回記念 新匠工芸展入賞	京都市美術館
門田 照子	6月	藍染創作グループ展	四電ギャラリー
	7月	第20回中部染色展愛知教育委員会賞受賞	愛知美術館
山本 和子	6月	藍染創作グループ展	四電ギャラリー
	7月	第20回中部染色展入選	愛知美術館
森 賢一	3月	日本現代工芸美術展入選	東京都立美術館
	12月	現代工芸四国会展出品	高松三越

谷 育子	12月	現代工芸四国会展出品	高松三越
多智花佐代子	3月	日本現代工芸美術展入選	東京都立美術館
	10月	日展入選	東京都立美術館
	"	タピストリー12人展出品	東京銀座ミキモトホール
	12月	現代工芸四国会展出品	高松三越
矢野 款一	5月	タイチェンマイ視察旅行	
	9月	矢野款一作陶展	徳島シビックセンター
新居 猛	10月	日中友好市場調査副団長	
	11月	「現代日本美術の展望－生活造形」展	富山県立近代美術館
	"	J I D主催「椅子曼陀羅」展	東京・大阪
村上 正典	5月	日 府 展	東京都立美術館
	"	'85国際陶芸展受賞	韓国大使館
	7月	関 西 展	大阪市立美術館
	"	四国の陶芸作家展	徳島そごう
	8月	徳島陶芸会	四 電
井後 宏	5月	第一美術協会展	東京都立美術館
	9月	国際七宝日本展	上野の森美術館
	12月	日本七宝作家協会展	東京都立美術館
九十九健二	5月	第一美術協会展 銅賞	東京都立美術館

書 道 部

部 会 長 田 中 双 鶴

年 間 展 望

年内に県内で開催された書道展は、県展を筆頭に博美展・芸術祭参加の19種目の主として社中展・大学卒展などで、何れも趣向をこらした華やかなもので、特に社中展では中央書壇の名家の賛助を得て開かれるものも多く、多彩であった。更に目を県外に向けた時、中央進出の気運も高まり、中央展にチャレンジして数々の成果を挙げた。

◎第26回博美展（5/29～6/2）

博美展は26回の年輪を重ね、質量共に充実し、出品点数324点と昨年を44点上廻り、入選140点という厳選であった。

（博美賞） 大松 静子

（優秀賞） 亀石 文苑、豊田 乾香、下村 清子、中西 甫子、佐藤 真堂、大松 洋子、
広島 章子、隅田 英二、川村 春琴、藤川満里子、青谷 藍苑

◎第40回県美術展（11/16～20）

県展書道は、第2期県展として郷土3F全館を使って開催された。書道の審査について問題が提起され2回に亘る検討委員会の末、審査員の増員、公開審査、鑑別は部門別、入賞は全審査員の採点一採点表の公開、出品数の自由などの新方式が採用された。

（審査員） 荒井 天鶴、久保 幽香、讃岐 泰泉、春藤 大耿、高原 清泉、田中 双鶴、
田中 栢翠、長江 清幽、新居 藍州、西岡 楚峰

（40回記念大賞） 隅田 英二

（特 選） （漢字）伊丹 東龍、岡田 華苑、佐藤 真堂

（仮名）竹田 和代、富久 鳴泉、松本 清香、後藤田公基、加藤 芳仙、
大松 華雪、吉岡 景鵬

（近代詩文）坂本 霄風、豊田 乾香

（前衛）田中 秀翠

（準特選）（漢字）田村 昇鶴、能仁 華瑤、亀石 文苑、宇山 泰鳳、長楽 優香、
横田 素林

（仮名）表原 輝実、山中 真紀、吉成真由美、河田 汀鶴、光井 明美、
宮城 明子、谷酒 秀雲、高島 瑞峯、西浦千代里、尾田 艶子、
榎原 溪川、広島 章子

（近代詩文）横谷 清亭、浜 佳香、多田 清芳

（前 衛）竹内 秀翠

（秀 作） 佐々木翠峰 外69名

◎第19回県芸術祭

・書道の参加行事は19種目で、何れも充実し盛会であった。

○参加行事

- 第14回徳島雪心会書作展（県郷土文化会館 8/28～9/1）
第8回泉心会書作展（同上 8/28～9/1）
第27回硬筆書道展（同上 8/31～9/1）
第42回書芸院現代書展（同上 9/5～8）
書人会第11回県展（徳島市シビックセンター 9/6～8）
北島ふさ米寿書展（四電相談センター 9/14～16）
徳島県書道協会展（県郷土文化会館 9/21～23）
第6回書研社展（徳島市シビックセンター 9/27～29）
第15回記念直心会書展（県郷土文化会館 9/27～29）
第15回記念東玄書道会展（同上 9/27～30）
第9回大日本書芸院徳島連合展（同上 10/3～5）
硬筆クラブ藍硬筆書作展（県青少年センター 10/18～21）
第1回書道研究香木書道会展・片山保堂作品展（NHK徳島放送局ロビー 10/22～29）
徳島かな書道研究会第10回書作展（県郷土文化会館 10/26～28）
第20回清潮会書作展（同上 10/28～30）
城南高校OB芳墨書道展（徳島市シビックセンター 11/23～24）
文化書道徳島連合会第6回書道展（県郷土文化会館 11/30～12/1）
四国女子大学書道コース第6回秀美書展（同上 12/13～15）
臨池会第6回臨池書展（同上 12/13～15）
- 昭和60年度県芸術祭（表彰式 昭和61年1月24日 於 眉山会館）
（優秀賞）奥野 雁峰、高岡 晃祥、蒲生 桂韻、椎野 春翠、市原 瑞江
（新人賞）大森三紀代

<個人消息>

◎中央展・県外展において審査員として活躍し、審査員作品を発表した人々

- ・第26回太玄書展（東京都美術館 1/12～18）
田中 双鶴、松田 友栄、中谷 史子、近藤 静苑
- ・第38回書道芸術展（東京都美術館） 2/1～7）
西岡 楚峰
- ・第21回創玄展（東京都美術館 3/3～10）
（一科審査員）荒井 天鶴、久保 幽香
（二科審査員）三木田栖鶴
- ・第7回日本書道学院展（東京都産業貿易センター 3/31～4/1）
勝瀬 景流
- ・第39回日本書芸院展（大阪市美術館 4/16～21）
勝瀬 景流
- ・第9回由源全国書展（国際見本市会館 5/18～20）
勝瀬 景流

- ・第37回毎日書道展（東京都美術館 7/17～21）
荒井 天鶴、久保 幽香
- ・第48回全日本ペン書道展（東京都立産業貿易センター 8/1～8）
勝瀬 景流

◎中央展・県外展に役員として作品を出品した人々

- ・第26回太玄書展（東京都美術館 1/12～18）
春藤 大耿、田村 昇鶴、笹尾 芳石、中尾 勝子
- ・第13回日本の書展（東京都美術館 2/1～7）
上田 溪水
- ・第21回創玄展（東京都美術館 3/3～10）
（二科審）成尾 荘秀
（学 審）芝原 醒鶴、岸 潮風、大松 碩城、粟田 白蓉、青柳 皐陽、中山 青葉
- ・第18回聖雲書道会展（岡山総合文化センター 3/11～31）
勝瀬 景流、近藤 俊流、薄田 玲泉
- ・第8回聖潤会書展（森川美術ギャラリー 3/29～31）
勝瀬 景流
- ・第7回日本書道学院展（東京都立産業貿易センター 3/31～4/1）
（委 嘱）山本 景琴、海野 景泉、手島 景扇、堀渕 琴流、吉岡 景鵬
（無鑑賞）赤川 景舟、勝瀬 悦世、川下 景風、小浜 景玉、近藤 俊流、薄田 玲泉、
竹内 虹舟、称木 香雪、山田 紅流、内藤 華舟
- ・第39回日本書芸院展（大阪市立美術館 4/6～21）
上田 溪水
- ・朝陽会選抜展（三島美術館 6/1～8/30）
勝瀬 景流、吉岡 景鵬
- ・朝陽会60年書展（岡山文化センター 6/10～17）
勝瀬 景流
- ・第2回現代俳句と書展（東京セントラル美術館 6/18～22）
久保 幽香
- ・大璞展（東京セントラル美術館 7/13～17）
久保 幽香
- ・第29回東方書道展（東京都美術館 7/23～28）
上田 溪水
- ・第37回毎日書道展（東京都美術館 7/31～8/4）
（審査会員）久保 幽香、三木田栖鶴
- ・第2回読売書法展（京都勸業館 8/7～12）
勝瀬 景流
- ・毎日現代書展四国展（高松市三越デパート 9/7～13）
久保 幽香、三木田栖鶴、成尾 荘秀、長原 皐鶴、芝原 醒鶴、岸 潮風、

中山 青葉、喜多村成蹊、浜 佳香、多田 清芳、竹田 香照

- ・第11回創玄現代書展（東京セントラル美術館 10/29～11/3）

久保 幽香、三木田栖鶴

- ・白象の俳句書展（大阪ギャラリーたちばな 11/14～19）

久保 幽香、三木田栖鶴、岸 潮風、成尾 莊秀、芝原 醒鶴、青柳 皐陽、
大松 碩城、中山 青葉、喜多村成蹊

- ・第19回聖雲会展（岡山文化センター 12/10～17）

勝瀬 景流、吉岡 景鵬

◎中央展、県外展に入賞した人々

- ・第26回太玄書展（東京都美術館 1/12～18）

会 員

（特別賞）岡島 順子

（奨励賞）広島 章子

（新人賞）近藤 聖邨、山中 真紀

一部（準会員）

（推 薦）表原 輝実

（準推薦）清村 宗子

二部（公 募）

（特 選）藤川満里子、古郷 弘江、島田 翠芳、大櫛 一峰、大松 翠雨、坂 青翠

（準特選）播磨 恭子、吉田美重子、宮越 大暁、由利 里子、笠井 宣江、中野ハルエ
佐川 由美、吉成 真於、阿部 芳雲、松永 裕子、岸田いち子、井上 康子

- ・第38回書道芸術院展（東京都美術館 2/1～7）

（褒 賞）大平 啓仙、坂本 青水、枅富 朴峰、横井 杜舟、笠原 三雨、吉田 史艸、
相城 巖鷗、豊浦 佳子、西岡 恵子

- ・第21回創玄展（東京都美術館 3/3～10）

（一科秀逸）浜 佳香

（二科賞） 富川 博秀、大野 清貞、竹田 香照、天野 啓子、折田 浩子、
横谷 清享

（準二科賞）遠藤 敏子、木田 史香、米沢 美穂、坂東多万江、大崎 玄穹、
林 皐苑、浜口 敏子、篠原 和風、平尾 久代、仁田 香草、
日開 皐扇

- ・第39回日本書芸院展（大阪市立美術館 4/16～21）

（大 賞）勝瀬 景流

- ・第37回毎日展（東京都美術館 7/17～21）

（毎日賞）浜 佳香

- ・第2回読書展（東京流通センター 8/7～12）

（特 選）上田 溪水

- ・第17回日展（東京都美術館 11/3～29）

(入 選)勝瀬 景流

- ・第2回日本かな書道会展(東京都立産業貿易センター 11/29~12/5)

(準大賞)勝瀬 景流

(秀 逸)吉岡 景鵬

◎個 展

- ・勝瀬 景流個展(徳島市シビックセンター 4/20~22)

- ・讃岐 泰泉書作展(同 上 8/9~13)

◎海外展

- ・ベルギー日本現代書展

(アルバート一世王立図書館エキシビジョンホール 10/8~11/23)

勝瀬 景流

デザイン部

部会長 坂本 三千一

年間展望

—亀倉雄策先生のことなど—

40回記念展にふさわしい県展審査員を呼ぼう、同じ来てもらうならトップデザイナーを、デザイン部会は燃えていた。亀倉雄策の声は今までも何回か出た、お願いもした、がすべて断わられていた。50年と58年の審査員、田中一光先生を通じて徳島行きを理解を取りつけてもらった。デリケートで卒直な方だからと、その時知らされていた。

もう5年程前になります。東京・草月会館で我々の所属するJAGDA=ジャグダ（日本グラフィックデザイナー協会）の総会に出席した時です。

全国から300名程のデザイナーが集まりコンピューターグラフィックスのシンポジウムのあとのパーティーの席で、今まで拝見はしていたが一度ぐらいは話をしておきたいと考え、亀倉会長に突撃インタビューを試みた。……そう、徳島から来たの……。徳島をご存じですか？「イヤ」鳴門の渦や阿波おどりが有名ですが？鳴門は徳島だったの……。阿波おどりはテレビなんかで見たことがあるナ、すごい人出らしいネ。大歩危や祖谷のかずら橋は……。知らん。

亀倉先生は日本のデザイン界はもとより国際的にも非常に評価の高い日本を代表するデザイナーです。代表作はご承知、東京オリンピックの公式ポスターをはじめヒロシマアピールズ（県展特別出品）の平和ポスター、グッドデザイン賞のマーク、沖縄海洋博のマスコットマーク、最近ではNTTのマークの他36年芸術選奨。55年に紫綬褒賞を受けられています。

日本で唯一のデザイナーの集まりであった日宣美（昭26～45年）の会長としても活躍され、現在の著名な作家はほとんど日宣美出身と言われています。53年日本グラフィックデザイナー協会を設立、会長に就任。

45年、日宣美（日本宣伝美術会）が解散したころ、県展にデザイン部門を設ける話が洋画部の平沢先生らから出かけていた。38年に発足した徳島ADGが母体となって46年（第26回展）から商業美術部門として新設。＜部会長 故庄野俊一（46年～51年・52年～57年・宗定盛男（大阪在住）＞58年・38回展より時代にそぐわないとしてデザイン部に改称。

昭和60年・40回記念展はデザイン部にとっても15年の節目でもあった。

徳島なんかにはんまに来てくれるんで。まあよく来てくれたもんだ。業界の人なら知られている恐れ多い方です。その通りでいろんなアクシデントがあったが今、ふり返って当然おこるべくして起こった気もしないでもない。阿波おどりは観てもらえなかったが徳島の鳴門の渦は橋の上からのぞいてもらった。

40回展も終わり県展の改革に着手されています。どんな立派な審査員が来られても、はずかしくない器と中味が期待されます。それにしても大物すぎた審査員でした。亀倉大先生に来て頂いた40回記念展（デザイン15年目）は大きな意義があったものと強く確信している。

<会員消息>

- 第40回記念県展デザイン部門（11／9～14日）郷文
審査員・亀倉雄策、特別出品・坂本三千一
大賞 あこの丘の向う側 斎藤 繁次
特選 フィッシング・パーティー 井上 稔
準特選 IMAGINE・1 木邑 智子
入選 斎藤 繁次、木邑 智子、田邨 哲男、吉本 実、浅野 昌哉、渡辺 和寿、
宮本 光夫
- the 寅展（部会展）NHKロビー（12／24～28・1／4～8日）
出品者 浅野 昌哉、井上 稔、岩佐 雅功、木邑 智子、斎藤 繁次、坂野美恵子、
坂本三千一、田邨 哲男、福井 章、福家 治、宮本 光夫、吉本 実
- 第26回博美展デザイン部門2期（5／22～26）博物館
委嘱出品・増田 伸寛、宮本 光夫
審査員・坂本三千一、浅野 昌哉、福井 章
- 第14回徳島市文化展商業美術部門（4／20～25）郷文
選考委員・宮本光夫、福井 章、坂本三千一、田中 一郎
出品者・斎藤 繁次、岩佐 雅功、木邑 智子
- 60年度徳島県秀作巡回展（10／9～12／15）県内9会場
デザイン出品者・坂本三千一、宮本 光夫、浅野 昌哉、坂野美恵子
- 第15回レタリングクラブ展（11／17～19）
出品者・岩佐 雅功、木邑 智子
- 斎藤 繁次・イラスト展（個展）8／1～30 トマト
- 坂野美恵子・第45回美術文化展デザイン部門入選 3月 東京
 - 第70回二科展デザイン部門入選 8月 東京
 - 五人のメッセージ 2／14～17 郷文 出品
 - 第5回徳島イラストレーターズクラブ展 7／12～14 和光ギャラリー 出品
 - 第6回徳島イラストレーターズクラブ展 61・2／1～2／15
徳島市役所・市民ギャラリー 出品
- 木邑 智子・第11回昭和美術会展イラスト部門入選 7月 京都
 - 鳴門市展出品

第40回徳島県美術展（県展）公募規定

部門 区分	日本画	洋画	写真	彫塑	美術工芸	書道	デザイン
搬入日	10月20日	10月19日	10月13日	10月20日	10月20日	10月13日	10月20日
搬入先	徳島県郷土文化会館						
審査日	10月20日	10月20日	10月13日	10月20日	10月20日	10月14日	10月20日
審査員	下保 昭	津高和一	岩宮武二 高田誠三	清水良治	浅野 陽	荒井・久保・讃岐・ 春藤・高原・田中双・ 田中晴・長江・新居・ 西岡	亀倉雄策
出品料	協会員 1点目 1,500円 その他の方 1点目 2,500円 ・2点目からはすべて 1,000円						
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・未公開作品に限る ・点数は制限なし ・小・中学校在学者は出品できない ・20号以上100号まで、横幅2m以内、額・枠張り（ガラス不可） 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 ・20号以上（水彩・版画は10号以上） ・額 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 ・組・単写真とも画面サイズ、半切以上（カラーは印画に限る） ・無鑑査以上は画面サイズ半切以上、単写真に限る ・襖張り・額（組写真を1パネルに全作品をレイアウトしたもの又は全作品を固定したもの） 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 ・高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m重量200kg以内 ・材料は自由、展示可能なものに限る 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 ・大きさ制限なし（ただし、平面作品は2.3×1.8m以内） ・木・竹・金土陶磁・漆器・染色・織物・人形など 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 ・大きさは①61cm×242cm（縦のみ）②79cm×181cm（縦横自由）③連落（中味）（縦横自由）④半切（中味）（縦横自由） ・額張り ・部門は漢字・仮名近代詩文・前衛とする 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 ・B1パネル横728×縦1,030ミリ ・厚さ25ミリ程度 ・課題は自由（実在の商品名・会社名等は除く）
入賞	大賞 1点 特選 3点 準特選 2点 準特選 若干点	大賞 1点 特選 5点 準特選 6点 準特選 若干点	大賞 1点 特選 9点 準特選 14点 準特選 若干点	大賞 1点 特選 2点 準特選 2点 準特選 若干点	大賞 1点 特選 4点 準特選 3点 準特選 若干点	大賞 1点 特選 13点 準特選 22点 準特選 若干点	大賞 1点 特選 3点 準特選 2点 準特選 若干点
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること。 ・展示作品は第1期・第2期の会期終了後、決められた日時までに搬出すること。 ・所定の期日までに搬出しない場合は、主催者において処分する。 						

招待・無鑑査・特別出品者名 (*は都合により不出品)

- | | | | | | | | | | | |
|---------|------------------|-------------------|------------------------|-----------------------|----------------------|---------------------|-----------------------|--|------------------------------------|------------------------------------|
| ☆ 日 本 画 | 待) 上尾野本 淵川野方 | 凌弘行 正靖 秋 る | 雪子 夫弘 夫健 溪 子 有 | 酒三 (無鑑査) 上森橋堀安 彫 | 井好査野 本 淵長 待) 崎藤津口下田東 | 博和 照賢 圭完 望 良 文 俊邦 文 | 司義 文一 祐治 剛 行隆 昭恵 作宏 夫 | (特別出品) 富招仲宮長西成渡原三芝前清美岸中長勝川三近上日岡荒(無鑑査) 山武島下中松藤永 | 眉 三青阜南荘草霄栖醒古桂幾潮史美景虹好静溪溪順彭 華鳴小清勝友美春 | 峰 人雨鶴龍秀石月鶴鶴舟月賀風子峰流泉鶯苑水翠子仙 城雲園子子米風苑 |
| ☆ 洋 画 | 待) 野山水 川原瀬橋岩口部尾井 | 比隆 亟文 隆康 敏 弘 太い 公 | 志二 悞雄 史孝等 敬巖 幸裕 久 郎む 雄 | ☆ 美 術 工 芸 待) 居橋 条花 下査 | 昌 猪佐 雄 賢 | 三代 昌 猪佐 雄 賢 | 猛勇 男浩 郎子 介 一 | 鶴香 泉耿 泉鶴 翠幽 州峰 | 木 谷谷 瀬上 間藤 田下 島井 査 口市 田村 尾田 若松 | 千 三 |
| ☆ 写 真 | 待) 島田上田 条西井内田 淵 | 正清 光英 征雅 敏 | 仁次 雄之二 夫梵 亨雄 魏 | ☆ 書 査 員) 井保岐 藤原 中江 居岡 | 天幽 泰大 清双 栢清 藍楚 | | | ☆ デ ザ イ ン (特別出品) 坂 本 | 千 一 | |

博美展博美賞受賞者一覽

(昭和41~60)

年度	回	日本画	洋画	写真	彫塑	美術工芸	書道	商業美術 (デザイン)
41	7	西岡範子	高橋敬子	平吉	山田成美	森	浩	
42	8	中川川健	長橋公	山田成美	細川直毅	森	浩	
43	9	天羽成良	長浜板東	吉中西上	川原村野	長條西下	長原江	
44	10	片岡谷	霜田精	川原	小野寺永	長條西下	長渡成	
45	11	長真	関田精	原	松霜田精	長條西下	芝喜多	
46	12		関田精		玉田田修		中口	
47	13		小梯久	隅矢吉	吉井露		中尾米	
48	14	今川一雅	小岡真	矢吉大	井露美		中久山	
49	15	大久保冬	矢野本	大小	井露美		中久山	
50	16	釣島崎進	真野本	大小	井露美		中久山	
51	17	吉崎雅生	矢野本	大小	井露美		中久山	
52	18	大久保久	四島川	湯東	一か		大佐野	
53	19	小松猛	四島川	森	条		大佐野	
54	20	日	岡田陽	東林	条		大佐野	
55	21	大賞 西中	野西和男	宮本陽	守子		鈴武佐	
56	22	佐々木子	藤川明	藤川明	子		表広	
57	23	金子川					表広	
58	24	中井原	森史	尾田	崎村		表広	
59	25	井原悦子	林伸	佐田	治本		表広	
60	26	大賞 鶴	真野	佐橋	本		表広	

あ と が き

昭和60年度美術年報をおとどけします。

表紙はデザイン部の坂本三千一氏からいただきました。

また、例年どおり各部長から各部に関する1年間の動き等をご執筆いただきましたありがとうございました。

昭和60年は記念すべき年で、県展も40回を迎えました。

40年の歴史の中には、いろいろな出来事があったことと思いますが、ここまで充実発展してまいりましたことは会員の皆さんのご尽力の賜ものと感謝申し上げる次第です。

元会長の桜木秀男氏が4月に、美術工芸部会長であった釜床誠一氏が12月になくなられました。会員の皆さんとともに御冥福をお祈りする次第です。

第41回展からは、いろいろと検討し、さらに県展としての発展を図るよう協議を重ねておるところです。

皆さんにも健康で創作活動に励まれますとともに、本会発展のためにお力添え下さいますことをお願いいたします。

昭和61年3月

県美術家協会事務局

昭和61年3月20日 印刷

昭和61年3月25日 発行

編集者 清 水 博

装幀者 坂 本 三千一

発行人 河 野 太 郎

印刷所 原田印刷出版株式会社